

---

# ぐんま水土里保全プラン 2016

---

～ 地域資源を活かす保全整備と活力ある地域づくり ～

## 令和元年度実施計画

**【評価】**



令和 2 年 9 月

群馬県農政部農村整備課

## 目 次

1	ぐんま水土里保全プラン 2016 の進行管理方針について	1
2	ぐんま水土里保全プラン 2016 の基本方針・施策体系	4
3	令和元年度実施計画【評価】 総括	6
4	実施計画【評価】（基本施策）	7
(1)	水土里の保全整備	7
1)	「水」の保全整備	7
2)	「土」の保全整備	13
3)	「里」の保全整備	19
(2)	協働	26
5	実施計画【評価】（地域計画）	29
(1)	中部地域	29
(2)	西部地域	40
(3)	吾妻地域	47
(4)	利根沼田地域	55
(5)	東部地域	63
6	令和元年度の主な予算	72
7	群馬県農業農村振興計画の概要と本プランの位置付け	73

# 1 ぐんま水土里保全プラン2016の進行管理方針について

## 1 進行管理方針

### 【「ぐんま水土里保全プラン2016」の概要】

計画期間：平成28年度～平成31年度（令和元年度）（4カ年間）

基本目標：『地域資源を活かす保全整備と活力ある地域づくり』

県では、平成31年度（令和元年度）を目標年度とする「ぐんま水土里保全プラン2016」（以下「プラン」という。）を平成28年3月に策定し、平成28年度～平成31年度（令和元年度）における農業農村整備の指針としています。

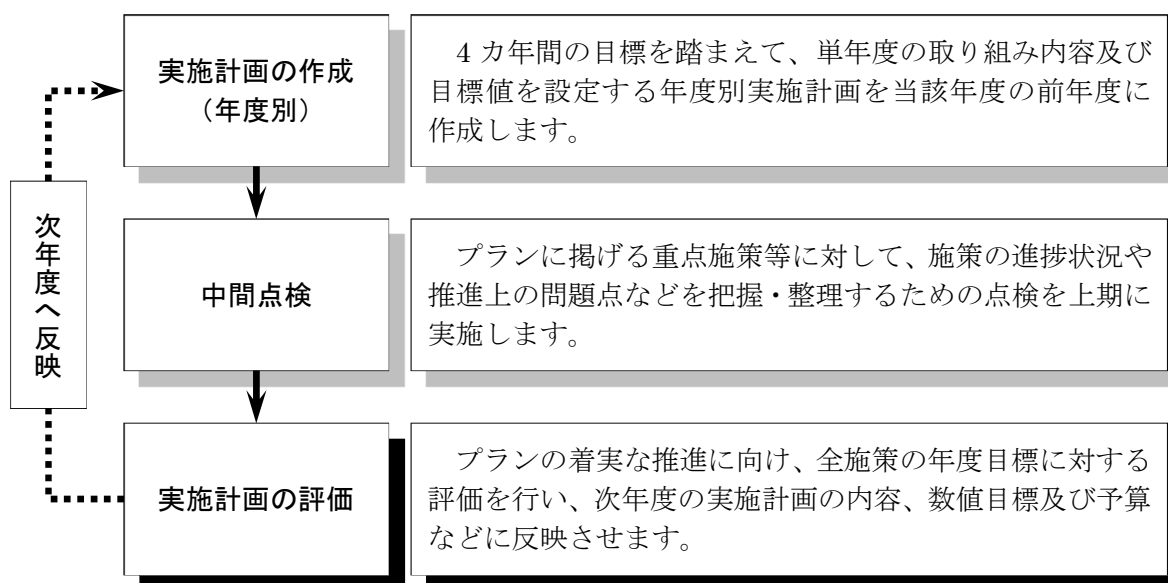
よって、本期間内の農業農村の保全整備は、プランに沿って実施していくこととし、基本目標である『地域資源を活かす保全整備と活力ある地域づくり』を目指します。

プランに掲げる基本目標の実現には、プランの実効性を確保することが重要であり、その取り組みとして、①年度別実施計画の作成、②年度途中における中間点検、③年度別実施計画の評価を毎年度行い、プランに位置づける施策等の進捗状況を的確に把握する進行管理を行います。

また、この進行管理の結果により、次年度の事業の実施方法や予算編成などに反映させ、より着実な施策等の推進を図ることとします。

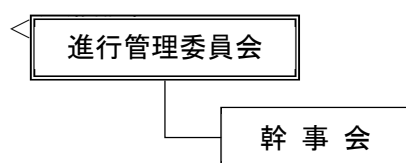
なお、作成した実施計画及び実施計画の評価については、その結果を公表します。

### 【進行管理の方法】



## 2 進行管理体制

### 【「ぐんま水土里保全プラン2016 進行管理委員会」の設置】



## 進行管理委員会の設置及び構成

プランの進行管理を行うための体制として、「ぐんま水土里保全プラン 2016 進行管理委員会」(以下「進行管理委員会」という。)を設置します。

また、進行管理委員会の効率的な運営を行うため、下部組織として幹事会を設けます。

なお、それぞれの役割としては、幹事会で実施計画や実績・評価等を取りまとめ、その結果を委員会で検討することとし、必要に応じて、委員会は幹事会に作業の指示や助言等を行います。

### ぐんま水土里保全プラン 2016 進行管理委員会

「構成員」

県 庁： 農村整備課 課長・水利保全対策主監・次長（技）  
農政課 次長、下水環境課 調整主監  
地域機関： 各農業事務所農村整備課長・農村整備センター長

とりまとめ結果



指示・助言

### ぐんま水土里保全プラン 2016 進行管理委員会幹事会

「構成員」

県 庁： 農村整備課 次長（技）、各係長  
下水環境課 農集排・浄化槽係長  
地域機関： 各農業事務所農村整備課・農村整備センター  
次長、計画調整係長、渋川相馬整備係長、管理整備係長

## 進行管理委員会における検討事項

進行管理委員会では、進行管理に関わる業務に加え、施策の推進状況や情勢の変化に応じた新規事業についても検討を行うこととし、下記に掲げる項目について検討します。

- 年度実施計画の作成
- 年度実施計画の中間点検
- 年度実施計画の評価

### 【評価基準】

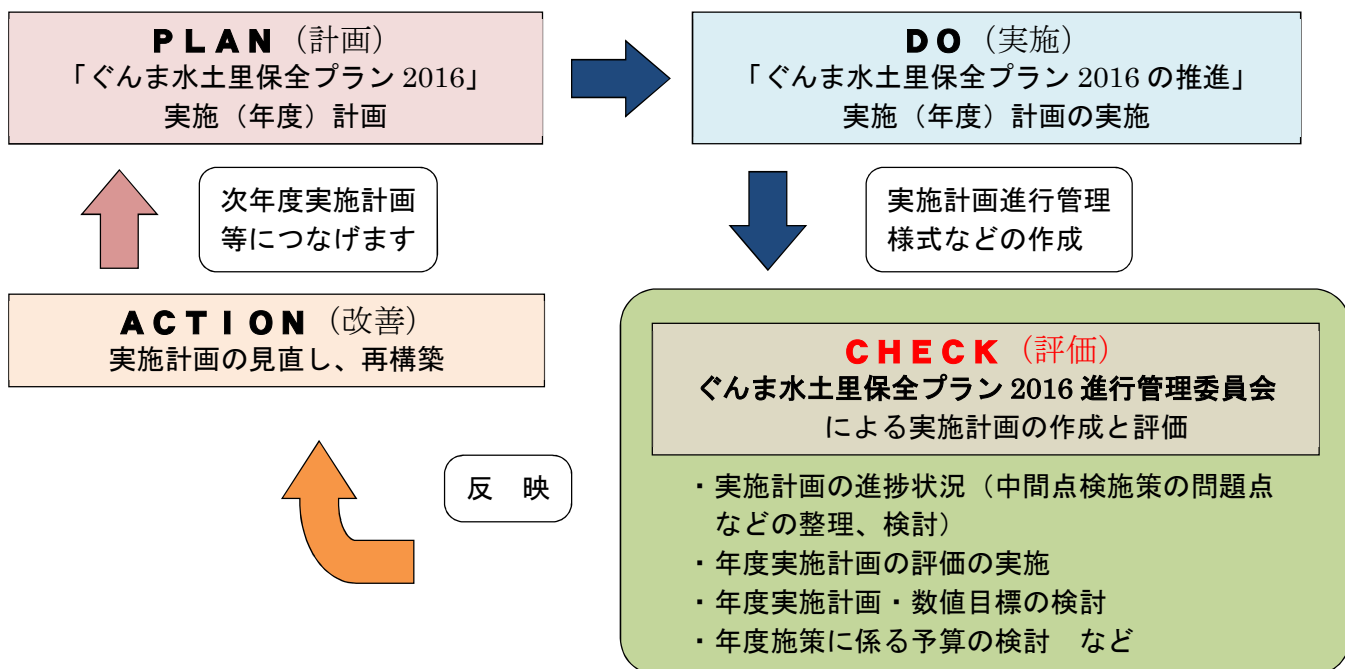
年度実施計画の評価及び中間点検については、下表の判定基準に基づき評価を行い、進行管理を行います。

なお、中間点検については、重点施策、数値目標を掲げている施策及び新規施策等に関するものについて実施します。

評価	評価基準 [中間点検時・評価時]	判定基準
A	計画どおり達成	100% ≤ 達成状況
B	達成ではないが順調に推移	80% ≤ 達成状況 < 100%
C	達成に向け努力が必要。必要に応じて見直しを検討	50% ≤ 達成状況 < 80%
D	達成に向け大きく努力が必要。必要に応じて抜本的に見直す	達成状況 < 50%
—	評価対象外	

【進行管理の考え方（イメージ）】

**PDCAサイクル**



進行管理スケジュール（当該年度）

	進行管理委員会		
	当該年度実施計画	委員会	幹事会
4月			
5月			
6月	↓ 中間点検		構成員会議開催（6／上旬）
7月			
8月			開催（8／上旬）〔・進行管理〕
9月		開催（9／上旬）〔・進行管理〕	
10月			
11月	↓ 評価とりまとめ ※次年度確定・その後公表		
12月			
1月			開催（1／旬）
2月		開催（2／上旬）	〔・当該年度実施計画評価 ・次年度実施計画策定〕
3月		〔・当該年度実施計画評価 ・次年度実施計画策定〕	

※上記進行管理のほか、必要に応じて進行管理委員会、幹事会、構成員会議を開催する。

## 2 ぐんま水土里保全プラン2016の基本方針・施策体系

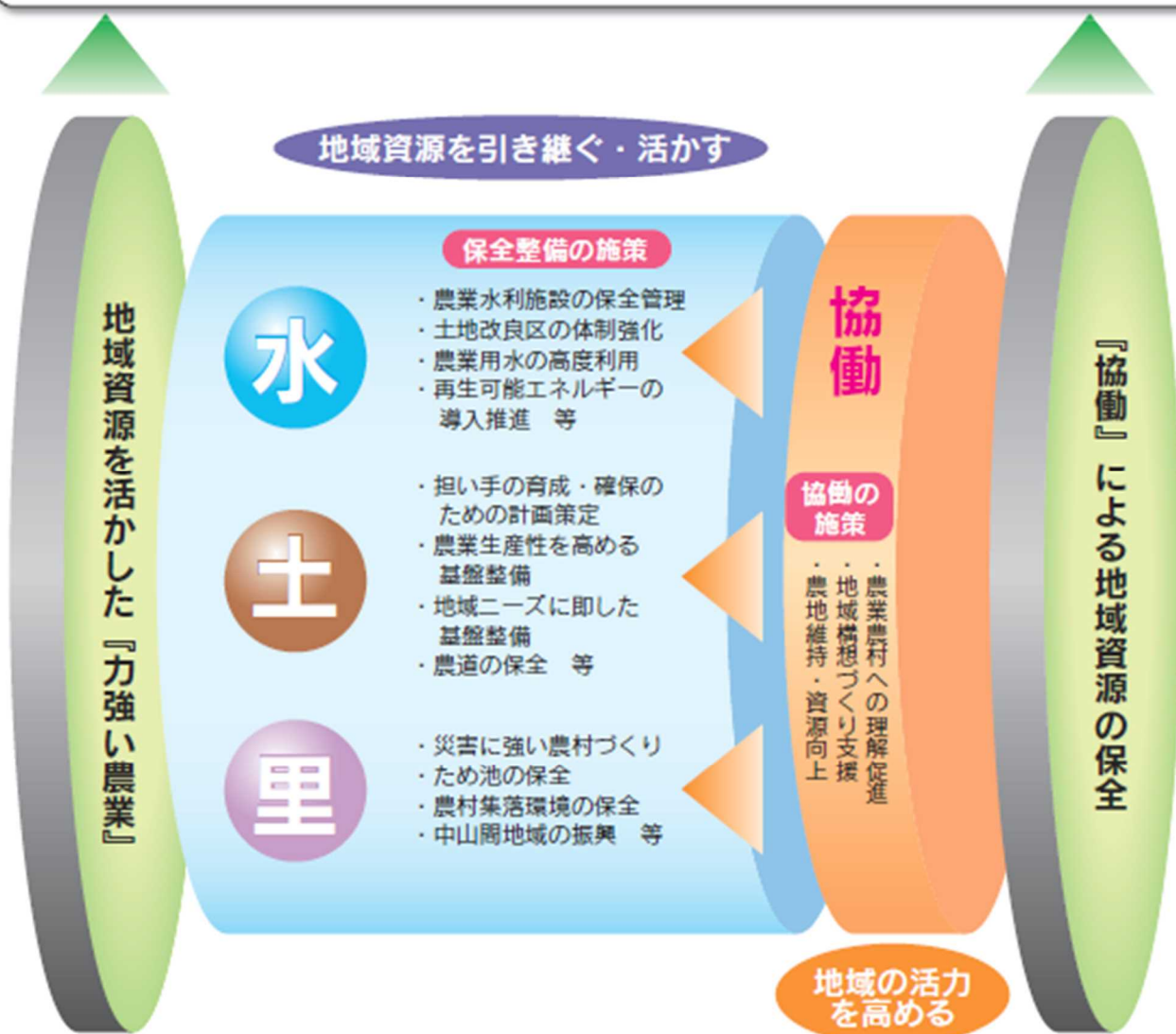
「力強い農業」と「活力ある地域」を持続するためには、豊かで、特色ある『水』、『土』、『里』の「地域資源を保全」しつつ、さらなる有効活用を図るための「地域資源の整備」を進め、将来へ引き継ぐことが必要です。

そのためには、

- ① 生産・生活基盤（資源）の機能が十分に発揮されること。【保全 ⇒ 引き継ぐ】
  - ② 生産・生活基盤（資源）の機能を高めること。【整備 ⇒ 活かす】
  - ③ 地域資源の保全管理を行う体制が充実していること。【協働 ⇒ 地域の活力を高める】
- が重要です。

このため、これらの保全・整備、協働の各種施策を組み合わせることで推進し、『地域資源を活かす保全整備と活力ある地域づくり』を目指します。

### 基本目標：『地域資源を活かす保全整備と活力ある地域づくり』



## 施 策 体 系

基本目標 『地域資源を活かす保全整備と活力ある地域づくり』

### 【基本施策】

#### (1) 水土里の保全整備

##### 1) 「水」の保全整備

- ① 農業水利施設の保全管理 **[重点]**
- ② 土地改良区（施設管理者）の体制強化 **[重点]**
- ③ 農業用水の高度利用
- ④ 再生可能エネルギーの導入推進
- ⑤ 農業用水の確保

##### 2) 「土」の保全整備

- ① 担い手の育成・確保のための計画策定 **[重点]**
- ② 農業生産性を高める基盤整備 **[重点]**
- ③ 地域ニーズに即した基盤整備 **[重点]**
- ④ 農道の保全
- ⑤ 野生鳥獣被害の防止

##### 3) 「里」の保全整備

- ① 災害に強い農村づくり **[重点]**
- ② ため池の保全
- ③ 農村地域の防災減災対策
- ④ 農村集落環境の保全
- ⑤ 中山間地域の振興 **[重点]**
- ⑥ グリーン・ツーリズムの推進

#### (2) 協 働

- ① 農地維持・資源向上 **[重点]**
- ② 地域構想づくり支援
- ③ 農業農村への理解促進

### 【地域計画】

- |            |                                |
|------------|--------------------------------|
| (1) 中部地域   | ～豊かな農地の創造と農業施設の保全を求め～          |
| (2) 西部地域   | ～地域がはぐくんだ歴史ある農業用水路の継承と農地整備の促進～ |
| (3) 吾妻地域   | ～あがつまの農業・農村の可能性を飛躍させるために～      |
| (4) 利根沼田地域 | ～ゆたかな緑と水に囲まれた「農業」「地域」を次世代へ～    |
| (5) 東部地域   | ～わたらせの水土里に未来をのせて～              |

## 3 令和元年度実施計画【評価】 総括

令和元年度は、ぐんま水土里保全プラン 2016（以下プラン）の最終年度として、平成 28 年度～平成 31 年度（令和元年度）の評価及び課題への取組などを踏まえ、「地域資源を活かす保全整備と活力ある地域づくり」の達成に向けて、着実に事業を執行したことにより、概ね目標を達成することができた。

### 1 水土里の保全整備

#### 1) 「水」の保全整備

- ➡ 基幹農業水利施設の適切な保全管理に向けて、機能保全計画に基づく 8 地区の保全対策を実施し、7,947ha の農地に対する農業用水の安定供給を図った。
- ➡ 自然災害発生時の迅速な対応が図られるよう、1 土地改良区（施設管理者）に対して業務継続計画（BCP）の策定を指導・支援した。
- ➡ 小水力発電等の導入を促進するため、国の研修会等に参加し、その情報を関係機関へ提供するとともに、再生可能エネルギーによる発電を開始した 4 地区について引き続き支援を行った。また、今後発電施設の導入を検討している 2 地区についても、発電開始に備え関係機関との協議等の支援を行った。

#### 2) 「土」の保全整備

- ➡ 力強い経営体の育成と安定的な農業生産に向けて、来年度に事業着手を予定している 6 地区の事業計画を速やかにとりまとめるとともに、基盤整備を行う地区については、農地中間管理事業との調整を行った。
- ➡ 担い手への農地集積の促進と農業生産性を高める大区画化等の農業生産基盤整備を 43.8ha（目標 88.3ha）において実施した。また、10 地区（目標 9 地区）において、担い手への農地集積を促進するための支援を行った。
- ➡ 東毛地域の水田地帯において、担い手への農地集積・集約化と連携した、簡易で低コストな基盤整備 18ha（目標 20ha）を支援した。
- ➡ 生産・流通・生活を支える農道機能を保全するため、保全対策計画に基づく 5 地区 2.4km（目標 0.8km）の農道舗装工事等の保全対策を実施した。
- ➡ 営農意欲の減退を招く野生鳥獣による農作物被害を軽減するため、小規模農村整備事業などにより侵入防止柵等 52.6km の設置を実施・支援した。

#### 3) 「里」の保全整備

- ➡ 大規模地震や台風等の頻発化やため池の決壊による被害の激甚化への対応に向けて、ため池の耐震性能検証 9 か所（目標 18 か所）、豪雨の安全性検証 2 か所（目標 13 か所）、並びにため池が決壊した場合における被害の減災を図るための、ハザードマップ 20 か所（目標 18 か所）の作成を支援した。
- ➡ また、国の「防災・減災、国土強靱化のための 3 か年対策」等を活用し、ため池の耐震・豪雨対策 8 か所（目標 12 か所）を実施し、ため池の防災・減災対策のさらなる加速化を図り、災害に強い農村づくりを推進した。
- ➡ 石綿が使用された農業用管水路の改修（撤去・更新）2.0km（目標 5.2km）において、老朽化等により破損した場合の石綿の飛散を未然に防止した。
- ➡ 農業集落排水施設の機能を最も効率的かつ経済的に維持するため、1 施設の機能診断調査と 2 町村の最適整備構想の策定を支援した。
- ➡ 外部からの移住者等の定住による中山間地域の活性化を図るため、地域特性を活かすための「中山間元気創生基盤整備構想」を 1 地区において策定した。
- ➡ HP「ぐんまグリーン・ツーリズム」をリニューアルし、中山間地域の魅力の情報発信を強化した。
- ➡ 県内 5 地域の中山間地振興に向けた地域別農業振興計画を策定し、「中山間地農業ルネッサンス事業」を実施することにより、中山間地の特色を活かした多様な取組を支援した。

### 2 協働

- ➡ 地域の協働による地域資源の保全活動 17,553ha を支援し、担い手の負担軽減を図るとともに、656 集落（当初目標 478 集落）の地域コミュニティ機能の維持・向上を図った。



## 4 実施計画【評価】（基本施策）

### （１） 水土里の保全整備

#### 「水」の保全整備

- 農業水利施設の保全管理【重点】
- 土地改良区（施設管理者）の体制強化【重点】
- 農業用水の高度利用
- 再生可能エネルギーの導入推進
- 農業用水の確保

- 農作物を安定的に生産するため、農業水利施設の保全対策と円滑な施設管理の実現を推進し、農業用水の安定供給を図る。
- 農業用水を活用した計画的な農作物生産、新規作物の導入や水管理の省力化等を推進し、産地づくりを支援する。

#### 【当該年度目標の達成状況】（取組 8 項目）

- 『農業水利施設の保全管理』に関する項目のうち、『ライフサイクルコストの低減と対策時期・費用の平準化』では、地元調整や水利権更新の遅れから、計画どおりの地区数着手が困難となり、目標達成できなかったため「C」評価とした。
- 『施設管理者による適切な保全管理』では、目標が達成できたことから「A」評価とした。
- 『土地改良区体制強化基本計画の策定』について、40 土地改良区に対して指導・支援を行ったことにより、対象とした全ての土地改良区で計画を策定することができ、目標達成できたことから、「A」評価とした。
- 再生可能エネルギー推進による小水力発電施設の導入について、2 地区において支援を行ったことから「A」評価とした。

① 農業水利施設の保安全管理 ～ 適切な保安全管理の実現 ～ **重点取組**

施設管理者に対し PDCA サイクルの周知・徹底を図り、適切な保安全管理を促進するとともに、ストックマネジメント手法による施設の長寿命化、並びに対策工事の集中を平準化し、効果的・効率的な施設の保全対策を推進する。

また、自然災害発生時の迅速な対応が図られるよう、BCP（業務継続計画）の策定を推進する。

## ◆ ライフサイクルコストの低減と対策時期・費用の平準化

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 機能保全計画に基づく、基幹農業水利施設の保全対策 ----- 8 地区を実施 ※ 赤城大沼用水 3 期、大正用水 2 期、山子田（群馬用水）、坂東大堰、美野原 2 期、沼田平、大間々用水、深沢川頭首工（大間々用水）	▶ 機能保全計画に基づく、基幹農業水利施設の保全対策 ----- 8 地区を実施 ※ 赤城大沼用水 3 期、大正用水 2 期、山子田（群馬用水）、坂東大堰、美野原 2 期、沼田平、大間々用水、深沢川頭首工（大間々用水）	C
これまでの取組内容	<b>（今年度の取組内容）</b> ・各地区において、関係機関との協議・調整を行い、2 地区で保全対策工事を起工した。その他の地区では工事の発注準備を行った。 ・一部の地区を除き、関係機関との協議・調整等を適宜行い、保全対策に向けた委託・工事を完了させた。 ・発注工事について、関係機関との協議・調整を進め、年度内完了を目指す。		
現状分析課題 今後の予定	<b>（現状分析・課題・今後の予定）</b> ・地元調整の遅れや水利権が更新できなかったことにより、目標としていた地区数に着手できなかった。 ・機能保全計画に基づく適時・適切な保全対策を推進する。		

## ◆ 施設管理者による適切な保安全管理

## ・施設管理者による施設監視

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 機能保全計画に基づく、施設監視 ----- 32 土地改良区等を指導・支援 ※ 大正用水、天狗岩堰、広瀬桃木両用水、八坂堰、佐波新田用水、赤城大沼用水、群馬用水、坂東大堰、中群馬、赤城西麓、鎗川、群馬中部、安中磯部、高崎西部、神流川用水、甘楽多野用水、中村堰、藤岡、長野堰、美野原、応桑用水、嬭恋、沼田平、追貝平、赤城北ろく、赤谷川沿岸、待矢場両堰、大間々用水、岡登堰、藪塚台地、邑楽、利根加用水	▶ 機能保全計画に基づく、施設監視 ----- 32 土地改良区等を指導・支援 ※ 大正用水、天狗岩堰、広瀬桃木両用水、八坂堰、佐波新田用水、赤城大沼用水、群馬用水、坂東大堰、中群馬、赤城西麓、鎗川、群馬中部、安中磯部、高崎西部、神流川用水、甘楽多野用水、中村堰、藤岡、長野堰、美野原、応桑用水、嬭恋、沼田平、追貝平、赤城北ろく、赤谷川沿岸、待矢場両堰、大間々用水、岡登堰、藪塚台地、邑楽、利根加用水	A
これまでの取組内容	<b>（今年度の取組内容）</b> ・2 土地改良区等が行う 5 地域 3 施設監視について、施設管理者自らが円滑かつ持続的な実施が可能となるよう、「群馬県基幹農業水利施設の施設監視要領」の周知を行った。		
現状分析課題 今後の予定	<b>（現状分析・課題・今後の予定）</b> ・非かんがい期において、施設監視の支援・指導を行う。 ・年度内の確実な施設監視により、施設の劣化状況を的確に把握する。		

## ・業務継続計画（BCP）の推進

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 業務継続計画（BCP）策定の推進 ----- 1 土地改良区を指導・支援 ※ 【対象土地改良区】甘楽多野用水、	▶ 業務継続計画（BCP）策定の推進 ----- 1 土地改良区を指導・支援 ※ 【対象土地改良区】甘楽多野用水、	A
これまでの取組内容	<b>（今年度の取組内容）</b> ・業務継続計画の策定に向けたスケジュール等を確認した。		
現状分析 課 題 今後の予定	<b>（現状分析・課題・今後の予定）</b> ・策定した業務継続計画（BCP）の適時更新を行い、関係機関との連携を図るとともに、導入編にて策定した改良区はバージョンアップを推進する。		

【対象土地改良区（国営造成施設管理者）】 群馬用水、赤城西麓、鎗川、甘楽多野用水、中村堰、待矢場両堰、岡登堰、藪塚台地、邑楽

※ 国営造成施設管理者以外の土地改良区を【推進土地改良区】として表記。

【策定済土地改良区】 赤城西麓、鎗川、中村堰、待矢場両堰、大間々用水、岡登堰、藪塚台地、邑楽、勢多郡東村、利根加用水、天狗岩堰

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31(R 元) (目標年)
<b>基幹農業水利施設の保全対策に着手した地区数 [地区]</b>						
目 標	—	—	17	20	27	32
実 績	12	16	19	20	20	22
<b>保全対策により農業用水の安定供給が維持された農地面積 [ha]</b>						
目 標	—	—	5,541	6,756	8,761	10,624
実 績	2,933	3,357	4,917	6,312	7,317	7,947
<b>業務継続計画を策定した土地改良区数 [土地改良区]</b>						
目 標	—	—	1	2	7	11(9)
実 績	1	1	2	6	11	12

※ 数値は、累計値。

※ 実績値が H31(R 元)目標値を超えた場合、次年度の目標値に前年度の実績値を標記し、当初目標値を括弧で標記。

② 土地改良区(施設管理者)の体制強化 ～ 組織運営の改善・安定化 ～ **重点取組**

農業水利施設の継続的な適正管理に向けて、農業水利施設等の管理者である土地改良区の運営体制の強化を図る。

## ◆ 土地改良区の運営体制の強化推進

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 土地改良区体制強化基本計画の推進 ----- 40 土地改良区の計画推進・ 更新の指導・支援 ※ 中部(2 土地改良区)、西部(15 土地改良区)、 吾妻(6 土地改良区)、利根沼田(4 土地改良 区)、東部(13 土地改良区)	▶ 土地改良区体制強化基本計画の推進 ----- 40 土地改良区の計画推進・ 更新の指導・支援 ※ 中部(2 土地改良区)、西部(15 土地改良区)、 吾妻(6 土地改良区)、利根沼田(4 土地改良 区)、東部(13 土地改良区)	<b>A</b>
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・土地改良区体制強化基本計画を策定した土地改良区に対して、基本計画の推進及び更新の指導・支援を行った。		
現状分析課題今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・引き続き、土地改良区体制強化基本計画を策定した土地改良区に対して、基本計画の推進及び更新の指導・支援を行う。		

## 数値目標

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31(R 元) (目標年)
土地改良区体制強化基本計画を策定した土地改良区数 [土地改良区]						
目 標	—	—	25	12	4	48
実 績	—	—	32	12	4	48

※ 数値は、単年度取組数。最終年度のみ累計値。

## ③ 農業用水の高度利用 ～ 営農の効率化・省力化 ～

地域の営農計画に基づき、畑地かんがいによる農作物の品質向上、パイプライン化などによる水管理の省力化や、地下かんがいシステムの導入による水稻から畑作物への転換など、農業用水の高度利用を図る。

## ◆ 地域の営農計画に即した農業用水の活用と制御

## ・畑地かんがい施設の整備

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 畑地かんがい施設の整備 ----- 2 地区を実施 ※ 上狩野、中原	▶ 畑地かんがい施設の整備 ----- 2 地区を実施 ※ 上狩野、中原	<b>A</b>
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・上狩野地区については、畑地かんがい施設(給水栓及び給水スタンド等)を整備し、中原地区については、給水栓の設置に向け地元説明会を行うなど、農業用水を活用した営農を推進した。		
現状分析課題今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・早期の農業用水の利用が可能となるよう畑地かんがい施設の整備を進めるとともに、高収益作物の導入促進や農業用水利用について普及啓発を行う。		

## ・地下水制御システム(地下かんがいシステム)の検討

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 導入地区の検討と地元推進体制の整備 ----- 1地区を実施 ※ 吉田	▶ 導入地区の検討と地元推進体制の整備 ----- 1地区を実施 ※ 城沼	A
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・水田地帯の農地整備事業計画地区において、地下水制御システムの導入検討を行った。 ・高収益作物導入に向け、令和2年度から東部地域研究センターにおいて試験研究を行うため、実証ほ場の整備を実施し、予備試験に着手した。		
現状分析課題今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・高収益作物導入に向け地下水制御システムによる効果を検証するため、東部地域研究センターにおいて試験研究に着手した。(令和元年度は予備試験、令和2年度から3カ年をかけ試験研究実施) ・上記試験研究と並行して、農地整備事業の新規計画地区において導入検討を行う。		

## 数値目標

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31(R元) (目標年)
<b>畑地かんがい施設の整備面積 [ha] 【4年間】</b>						
目 標	—	—	8	8	8	30
実 績	—	—	8	0	20	47
<b>地下水制御システム(地下かんがいシステム)の導入検討地区数 [地区]</b>						
目 標	—	—	1	1	1	1
実 績	—	—	1	1	1	1

※ 数値は、単年度取組数。畑地かんがい施設の整備面積については、最終年度のみ累計値。

## ④ 再生可能エネルギーの導入推進 ～ 維持管理費の低減 ～

土地改良施設等の維持管理にかかる費用の低減を図るため、農業用水を活用した小水力発電施設等の導入を推進する。

## ◆ 農村地域における未利用資源を活用した再生可能エネルギー導入推進

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 小水力発電等の導入に向けた推進 ----- 1地区を支援 ※ 小出	▶ 小水力発電等の導入に向けた推進 ----- 2地区を支援 ※ 小出、宮川	A
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・小出地区及び宮川地区について、土地改良区が行う発電開始のための関係機関との協議調整や事業化に向けた支援を行った。		
現状分析課題今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・小出地区及び宮川地区については導入に向け、引き続き関係機関と協議を行い、土地改良区に対して事業化に向けた支援を行う。		

## 数値目標

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31(R元) (目標年)
<b>農業用水を活用した小水力発電施設の稼働数 [施設]</b>						
目 標	—	—	—	2	1	4
実 績	—	—	—	3	1	4

※ 数値は、単年度取組数。最終年度のみ累計値。

## ⑤ 農業用水の確保 ～ 多様な農産物生産への備え ～

農業用水の安定的な確保に向けて、水利用の実態把握に努めるとともに、河川協議を円滑に整えるための調査や調整を行う。

また、東部地域の利根川左岸における冬期用水の確保に必要な調査や調整を行う。

## ◆ 許可水利権の円滑な更新

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 円滑な水利権更新のための調査 ----- 5地区を実施 ※ 天狗岩堰、十二堰、長野堰、藤岡中央、八間樋	▶ 円滑な水利権更新のための調査 ----- 6地区を実施 ※ 天狗岩堰、十二堰、長野堰、藤岡中央、八間樋、広瀬桃木両用水	A
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・天狗岩堰、長野堰、藤岡中央、八間樋について、更新協議に係る資料作成や河川管理者との調整を行った。 ・十二堰については、水利権が許可された。 ・広瀬桃木両用水について、更新協議に係る調整等支援を行った。		
現状分析 課 題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・引き続き、更新協議中の地区について、資料のとりまとめや河川管理者との協議を進めていく。		

## ◆ 冬期用水の確保

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 冬期用水確保のための水質調査 ----- 1地区を実施 ※ 利根大堰左岸	▶ 冬期用水確保のための水質調査 ----- 1地区を実施 ※ 利根大堰左岸	A
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・利根川左岸の冬期通水について関係機関と調整を図るとともに、通水効果を調査した。		
現状分析 課 題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・今後も水環境実態調査等を取りまとめ、試験通水による効果のデータ蓄積を行っていく。		

## 数値目標

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31(R元) (目標年)
河川協議に向けて支援を行う件数 [件]						
目 標	—	—	3	6	10	10
実 績	—	—	4	9	11	12

※ 数値は、累計値。

## 「土」の保全整備

- 担い手の育成・確保のための計画策定【重点】
- 農業生産性を高める基盤整備【重点】
- 地域ニーズに即した基盤整備【重点】
- 農道の保全
- 野生鳥獣被害の防止

- 地域の実情とニーズを踏まえた基盤整備により、農業生産性の向上による生産費の低減を図る。
- 生産から流通に関わる生産基盤の保全により、農業生産性の維持を図る。
- 力強い担い手を育成するため、農業生産性の高い農地の確保と基盤整備を契機とした担い手への農地集積・集約化を促進する。

### 【当該年度目標の達成状況】(取組 9 項目)

- 『農業生産性を高める基盤整備』において、目標達成に向けて 12 地区で取り組んだが、目標年の目標値を下回ったことから「C」評価とした。  
なお、農地集積支援の取組については、目標を達成したことから「A」評価とした。
- 『地域ニーズに即した基盤整備』では、簡易なほ場整備の推進により、新たに 1 地区の大区画化が図ったが、目標達成には至らなかったため、「B」評価とした。
- 『農道の保全』では、農産物の流通及び通作に支障を来たさぬよう実施内容を見直しながら、5 地区で保全対策に取り組んだが、目標年の目標値を下回ったことから「C」評価とした。
- 『野生鳥獣被害の防止』では、拡大する被害に対して、国、県の予算を確保することにより、地域要望に対応できたことから、「A」評価とした。

### ⑥ 担い手の育成・確保のための計画策定 ～ 力強い経営体の育成 ～

重点取組

農業生産性の向上と担い手を主体とした地域の営農計画を基に、整備計画を策定するとともに、より担い手への農地集積・集約化を促進するため、農地中間管理機構と連携した事業計画を策定する。

#### ◆ 収益性の高い農業経営実現のための事業計画づくり

	計 画	実 績	評価
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 地域の営農計画に即した事業計画策定 ----- 2地区のとりまとめ</li> <li>※ 大正用水 3期、富士見</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 地域の営農計画に即した事業計画策定 ----- 2地区のとりまとめ</li> <li>※ 大正用水 3期、富士見</li> </ul>	<b>A</b>
これまでの取組内容	<p><b>(今年度の取組内容)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・土地改良区等関係機関と協力し、地域営農計画に即した事業計画を策定した。</li> </ul>		
現状分析 課 題 今後の予定	<p><b>(現状分析・課題・今後の予定)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国のヒアリングを受けて事業計画の最終とりまとめを行い、県の事前評価を経て採択を申請した。</li> </ul>		

## ◆ 担い手への農地集積・集約化を確実に進める計画づくり

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 農地集積・集約化のための事業計画策定 ----- 4地区のとりまとめ ※ 境小此木東部、保美、牛の平、緑町	▶ 農地集積・集約化のための事業計画策定 ----- 4地区のとりまとめ ※ 境小此木東部、保美、牛の平、緑町	A
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・地域の話し合いにより、農地中間管理事業を活用した担い手への農地集積を進め、事業計画をとりまとめた。		
現状分析 課 題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・国のヒアリングを受けて事業計画の最終とりまとめを行い、県の事前評価を経て採択を申請した。		

## 数値目標

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31(R元) (目標年)
農地中間管理事業との連携を推進した区画整理の計画地区数【地区】【4年間】						
目 標	—	—	1	1	2	全地区
実 績	—	—	1	0	2	7

※ 数値は、単年度取組数。なお、最終年度は地区数（年度の重複を除く）の累計値

⑦ 農業生産性を高める基盤整備 ～ 担い手が活躍する生産基盤の確保 ～ **重点取組**

営農計画に基づく総合的な農業生産基盤整備を実施し、生産性、収益性の高い農業の展開による地域農業振興や農地中間管理事業と連携した担い手への農地集積・集約化を促進する。

## ◆ 経営の効率化安定のための基盤整備

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 農業生産性の向上と担い手への農地集積を促進するための基盤整備 ----- 9地区を実施 ※ 上細井中西部、上狩野、中原、笠張、松義西部、下戸塚、笹川沿岸、牛田川除、五箇谷 ----- 2地区を支援 ※ 境下武士、宇田・一ノ宮	▶ 農業生産性の向上と担い手への農地集積を促進するための基盤整備 ----- 10地区を実施 ※ 上細井中西部、上狩野、中原、笠張、松義西部、下戸塚、笹川沿岸、牛田川除、五箇谷、下江黒 ----- 2地区を支援 ※ 境下武士、宇田・一ノ宮	C
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・各地区において、工事及び委託業務の発注を行い、事業の進捗を図った。 ・新規の笠張地区及び下江黒地区では、換地原案作成に向けて、地元調整及び測量などを実施した。 ・上狩野地区及び笹川沿岸地区では計画変更の手続きに着手し、牛田川除地区では、計画変更に向けてこれまでの実績等の整理を行った。		
現状分析 課 題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・過年度における予算不足と、新規地区の立ち上げが遅れたため、目標としていた整備面積に達しなかった。 ・今後も、地元要望実現のため、計画的な整備に取り組むとともに、予算確保に努め、早期の効果発現を図る。		



## ◆ 担い手へのさらなる農地集積促進

## ・各種制度活用による農地集積支援

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 基盤整備を契機とした農地集積の促進 ----- 9地区を支援 ※ 上細井中西部、上狩野、中原、笠張、松義西部、下戸塚、笹川沿岸、牛田川除、五箇谷	▶ 基盤整備を契機とした農地集積の促進 ----- 10地区を支援 ※ 上細井中西部、上狩野、中原、笠張、松義西部、下戸塚、笹川沿岸、牛田川除、五箇谷、下江黒	A
これまでの取組内容	<b>（今年度の取組内容）</b> ・農地中間管理事業を活用した農地集積が促進されるよう各種会議等での制度周知を行うとともに、農地集積に向けた支援を行った。		
現状分析 課 題 今後の予定	<b>（現状分析・課題・今後の予定）</b> ・引き続き、担い手への農地集積に向けた調整を行うとともに、会議の場等を借りて農地中間管理事業の周知を図る。 ・また、受益者の負担軽減を図るためには、中心経営体農地集積促進事業が有効なことから中心経営体への農地集積をさらに進める。		

## ・農地集積に合わせた簡易な整備

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 簡易な整備手法による区画拡大 ----- 1地区を支援 ※ 前橋市（1地区）	▶ 簡易な整備手法による区画拡大 ----- 1地区を支援 ※ 太田市（1地区）	A
これまでの取組内容	<b>（今年度の取組内容）</b> ・市町村が実施する農地集積を進めるための畦畔除去等による区画拡大等の事業推進を支援した。 ・来年度の実施予定地区について、市町村に対して事業計画策定等の支援を行った。		
現状分析 課 題 今後の予定	<b>（現状分析・課題・今後の予定）</b> ・引き続き、畦畔除去や暗渠排水等による耕作条件の改善を推進する事業主体への支援を行う。		

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31 (目標年)
<b>区画整理による整備面積（水田・畑）[ha]【4年間】</b>						
目 標	—	—	61.9	154.0	231.7	320.0
実 績	—	—	53.7	94.3	178.9	222.7
<b>農地中間管理事業との連携を推進した区画整理の実施地区数 [地区]【4年間】</b>						
目 標	—	—	12	12	10	全地区
実 績	—	—	13	12	10	14

※ 区画整理による整備面積の数値は、累計値。

※ 農地中間管理事業との連携を推進した区画整理の実施地区数の数値は、単年度取組数。なお、最終年度は地区数（年度の重複を除く）の累計値。

⑧ 地域ニーズに即した基盤整備 ～ きめ細やかな対応 ～ **重点取組**

平坦地域における 10a 区画水田の畦畔除去や農作業道の幅員が狭小ヶ所の拡幅など地域の要望に応じたきめ細やかな基盤整備を支援する。

## ◆ 簡易な整備手法等による基盤整備

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 10a 区画水田における区画拡大 ----- 1 地区を支援 ※ 城沼	▶ 10a 区画水田における区画拡大 ----- 1 地区を支援 ※ 城沼	<b>B</b>
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・農地の区画拡大を図るための工事実施に向けて、事業実施主体に対して助言・指導を行った。		
現状分析 課 題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・整備費を抑えた簡易整備により、水稻の生産コストの低減が図られる農地が確保できることから、簡易な整備手法を継続的に推進する。		

## ◆ 営農条件改善のための基盤整備

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 農業用施設の維持管理の低減や農作業の省力化を図る基盤整備 ----- 12 地区を実施・支援 ※ 前橋第 2、前橋南部、大正用水 3 期、子母山、広川原、嬭恋西部、嬭恋北部、干保、追貝原、頭沼、明和 6、海老瀬・細谷	▶ 農業用施設の維持管理の低減や農作業の省力化を図る基盤整備 ----- 14 地区を実施・支援 ※ 前橋第 2、前橋南部、大正用水 3 期、子母山、広川原、嬭恋西部、嬭恋北部、干保、追貝原、頭沼、明和 6、明和 8、明和 9、海老瀬・細谷	<b>A</b>
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・事業実施地区において、計画的に事業推進が図られるよう関係市町村等を指導した。 ・来年度の実施予定地区について、関係市町村等に対して事業計画策定等の支援を行った。		
現状分析 課 題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・引き続き計画的な事業推進が図られるよう、事業実施主体への事業計画策定等を支援する。		

## 数値目標

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31(R 元) (目標年)
10a 区画水田の区画拡大をした面積 [ha] 【4 年間】						
目 標	—	—	18.7	40.0	60.0	80.0
実 績	—	—	26.4	38.9	49.2	67.2

※ 数値は、累計値。

## ⑨ 農道の保全 ～ 生産・流通・生活を支える ～

農村地域の生活や生産と流通を支える基幹的な農道の持続的な機能発揮をするため、ライフサイクルコストを低減する農道保全対策計画を作成し、保全対策計画に基づいた整備を実施するとともに、施設管理者が適切な管理が行えるよう支援する。

## ◆ 生産・流通と農村地域の生活を支える農道機能の持続的な発揮

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 保全対策計画に基づく、保全対策 ----- 5地区を実施 ※ 赤城南第2、大笹、中之条、榛名西麓1期、 赤城西	▶ 保全対策計画に基づく、保全対策 ----- 5地区を実施 ※ 赤城南第2、大笹、中之条、榛名西麓1期、 赤城西	C
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・通作や農産物の流通経路の確保に向けて、保全対策計画に基づく、橋梁の補修・補強や路面補修に取り組んだ。		
現状分析課題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・早期効果発現を図るため、適正な工程管理に努めるとともに、関係機関と来年度の事業推進に向けた協議、調整等を行う。 特に、台風第19号で甚大な被害があり、災害復旧事業を優先的に実施していることから、円滑な保全対策が実施できるよう地元関係者、建設業者及び関係機関等と綿密な調整を行う。		

## 数値目標

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31(R元) (目標年)
基幹的な農道の保全対策の実施延長 [km]						
目 標	—	—	19.6	27.8	29.2	30.0
実 績	14.2	15.5	15.9	17.8	20.1	22.5

※ 数値は、累計値。

## ⑩ 野生鳥獣被害の防止 ～ 営農意欲を守る ～

市町村の鳥獣被害防止計画に基づき、侵入防止柵の設置を推進し、地域ぐるみで行う被害防止対策を支援する。

## ◆ 野生鳥獣被害による営農意欲の減退を防ぐ野生鳥獣被害防止対策

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 侵入防止柵等の設置 ----- 9市町村において実施・支援 ※ 前橋市、渋川市、富岡市、安中市、甘楽町、 東吾妻町、沼田市、みなかみ町、桐生市 ----- 40km の設置・設置支援	▶ 侵入防止柵等の設置 ----- 11市町村において実施・支援 ※ 前橋市、渋川市、富岡市、安中市、甘楽町、 東吾妻町、高山村、嬭恋村、沼田市、みなか み町、桐生市 ----- 52km の設置・設置支援	A
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・早期執行に向け、申請者の手続き等を支援した。		
現状分析課題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・各地区において、市町村の鳥獣害対策を支援し農業被害の軽減を図る。		

## 数値目標

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31(R元) (目標年)
<b>野生被害防止対策を支援した市町村数 [市町村]</b>						
目 標	—	—	12	13	14	17
実 績	(17)	—	14	17	14	21
<b>侵入防止柵の設置延長 (km/年)</b>						
目 標	—	—	40.0	40.0	40.0	40.0
実 績	—	—	50.5	59.3	57.8	52.6

※ 基準年の（ ）内は、過去4年間（H25～27）の実績であり、4年間で同数の実施・支援を目指した。

数値は単年度取組数。なお、野生被害防止対策を支援した市町村数についての最終年度は、市町村（年度の重複を除く）の累計値。

## 「里」の保全整備

- 災害に強い農村づくり【重点】
- ため池の保全
- 農村地域の防災減災対策
- 農村集落環境の保全
- 中山間地域の振興【重点】
- グリーン・ツーリズムの推進

- ため池の改修等による防災対策や、災害発生時等における被害の減災対策に取り組み、農業経営の安定と国土保全を図る。
- 農村地域における生活環境の維持・向上を図り、暮らしたい農村づくりに取り組む。
- 多彩な地域資源の積極的な活用への取り組みや多様な分野との連携による都市農村交流を推進し、活力ある農村づくりを目指す。

### 【当該年度目標の達成状況】(取組 13 項目)

- 『災害に強い農村づくり』において、ため池の耐震性点検調査などにおいて単年度の取り組み内容は減少したが、目標年の目標値を上回ったことから、「A」評価とした。また、ハザードマップの作成は、目標を達成できた。
- 災害に強い安全な農村づくりに向けて、ため池の保全整備や湛水被害対策では、円滑に事業実施できたことから「A」評価とした。
- 地すべり防止区域における農地・国土保全では、4 地区において機能保全計画(個別施設計画)の策定し、目標年の目標値を上回ったことから「A」評価とした。
- 石綿が使用された農業用管水路の撤去では、地元調整の結果、農業用水の安定供給を図るため、先行して新設管の布設を行い、石綿管の撤去を次年度以降としたことから「C」評価となった。
- やま・さと応援隊 5 団体が地域に入り、地域資源調査やその活用方法について提案した。
- 地域興しマイスターを 16 回派遣し、地域の課題解決に役立てたので「B」評価とした。
- グリーン・ツーリズムの推進では、HP「ぐんまのグリーン・ツーリズム」をリニューアルし、群馬のグリーン・ツーリズムの魅力の発信を強化、情報の充実をすることができたので「A」評価とした。
- 外部からの移住者等の定住による中山間地域の活性化を図るため、地域特性を活かす「中山間元気創生基盤整備構想」を 1 地区策定した。

## ⑪ 災害に強い農村づくり ～ 自然災害への備え ～

重点取組

農業用水利施設の防災対策や災害発生時等における被害の減災対策に取り組み、農業経営の安定と国土保全を図る。

## ◆ 災害に備えた補強対策による防災減災の推進

## ・ ため池の耐震性能の把握

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 耐震性能検証 --- 2地区(18か所)を実施・支援 ※ 太田4(16か所)、みどり1(2か所) ▶ 豪雨に対する安全性検証 ----- 3地区(13か所)を支援 ※ 前橋第6(10か所)、鎌田温水ため池、みどり1(2か所)	▶ 耐震性能検証 ----- 3地区(9か所)を実施・支援 ※ 前橋第6(2か所)、太田4(6か所)、みどり1(1か所) ▶ 豪雨に対する安全性検証 ----- 2地区(2か所)を支援 ※ 鎌田温水ため池、みどり1(1か所)	A
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・ 防災重点ため池の再選定により、実施地区の見直しを行ったこと、また、会計検査院からの豪雨調査に係る指摘を踏まえ、調査内容・方法について検討が必要となったことから、地震及び豪雨の詳細調査か所の変更を行った。		
現状分析課題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・ 防災重点ため池の再選定により調査対象となるため池数が増加したことから、詳細調査の必要性、重要性を関係市町村に周知し、検証の早期完了に向けて加速化を図る。		

## 【耐震性能を確認するため池】

※県営：鈴峰貯水池、桃泉貯水池(\*再検証)

※団体営：〔前橋〕五料沼、原貯水池【2】、〔太田〕北金井溜池(上池)、長手第1溜池(上池)、長手第2溜池(下池)、福田池、滝之入池、湯之入上溜【6】、〔みどり〕阿左美沼【1】

## 【豪雨に対する安全性を確認するため池】

※団体営：〔片品〕鎌田温水ため池、〔みどり〕阿左美沼

## 数値目標

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31 (目標年)
耐震性能を確認したため池数〔ヶ所〕						
目 標	—	—	70	84	95	99
実 績	45	49	70	84	91	104

※数値は、累計値。

## ◆ 地域との連携による防災減災の取り組み推進

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ ため池のハザードマップ作成 ----- 2地区(18ヶ所)を支援 ※ 太田4(16か所)、みどり1(2か所)	▶ ため池のハザードマップ作成 ----- 4地区(20ヶ所)を支援 ※ 前橋第8(6か所)、伊勢崎第2(4か所)、太田4(7か所)、みどり1(3か所)	A
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・ 防災重点ため池の再選定に伴い、今年度に作成するため池の再調整を行ったところ、新たに2地区を追加支援することとし、4市4地区を支援した。		
現状分析課題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・ 防災重点ため池に係る対策の第一段階として、ハザードマップ作成の理解促進を図り、緊急時における地域住民の迅速な避難行動につなげる。		

## 【ハザードマップを作成したため池】 20施設

※団体営：〔前橋〕五料沼、大堤沼、中子沼、原貯水池、長又沼、久保替戸沼【6】、〔伊勢崎〕八幡沼、蟹沼、磯沼、伊与久沼【4】、〔太田〕長手第1溜池(上池)、長手第2溜池(下池)、福田池、滝之入池、湯之入上溜、湯之入中溜、湯之入下溜【7】、〔みどり〕阿左美東貯水池、阿左美沼、鹿の川沼【3】

## 数値目標

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31(R 元) (目標年)
<b>ハザードマップの作成を支援したため池数 [ヶ所]</b>						
目 標	—	—	51	67	87	91
実 績	29	29	51	67	90	112
<b>耐震性能を確認した農業水利施設(ため池除く)数 [施設]</b>						
目 標	—	—	12	88	131	131 (135)
実 績	—	—	55	104	131	131

※ 数値は、累計値。

※ 平成 30 年度に調査対象施設を再整理し、135 施設から 131 施設へ変更した。

## ⑫ ため池の保全 ～ 地域による管理体制の再構築 ～

農業用水の安定確保と地域の防災減災を図るため、早期に改修が必要なため池を計画的に改修する。

## ◆ 農業用水の安定確保とため池の管理体制整備

	計 画	実 績	評価
取組内容	<p>▶ 早期に改修が必要なため池の保全整備 ----- 12 地区を実施</p> <p>※ 【ため池整備】池田、大谷・牛秣、大谷の堤 ※ 【ため池緊急防災減災対策】中野貯水池、穂積ため池、三峰第 1、奥沢下沼、宇楚井、鎌田温水ため池、権現上、宮原貯水池、二又の池</p>	<p>▶ 早期に改修が必要なため池の保全整備 ----- 8 地区を実施</p> <p>※ 【ため池整備】池田、大谷・牛秣、大谷の堤 ※ 【ため池緊急防災減災対策】中野貯水池、穂積ため池、三峰第 1、奥沢下沼、宇楚井</p>	A
これまでの取組内容	<p><b>(今年度の取組内容)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ため池整備で実施している池田ため池及び大谷池は、耐震性能が不足することから補強対策を一部実施した。</li> <li>ため池緊急防災減災対策(4 地区)については、国の事業制度が拡充され、国庫補助事業の要件を満たすこと等、状況が変化したことから、再度、実施について調整することとした。</li> </ul>		
現状分析課題 今後の予定	<p><b>(現状分析・課題・今後の予定)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>池田地区及び大谷・牛秣地区については、早期の補強対策工事が完了できるよう、関係機関及び地元との調整を図る。</li> <li>ため池緊急防災減災対策事業の実施地区については、次年度の対策工事が早期に着工できるよう地元調整を進める。</li> </ul>		

【耐震化等の対策を実施するため池】

※池田、大谷池、牛秣貯水池、中野貯水池、穂積ため池、三峰第 1 ため池

## 数値目標

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31(R 元) (目標年)
<b>老朽ため池等の改修済数(耐震対策工事を含む)</b>						
目 標	—	—	3	1	2	8
実 績	—	—	3	1	2	8

※ 数値は、単年度取組数。最終年度のみ累計値。

## ⑬ 農村地域の防災減災対策 ～ 農地・地域を守る ～

農地を含めた農村地域の生活環境の維持・向上を図るため、農村地域の湛水被害の未然防止や地すべり防止区域における地すべり対策工事と機能確保のための維持管理等を行う。

また、石綿セメント管が使用されている農業用管水路の撤去等を実施する。

## ◆ 農地への湛水被害の未然防止

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 農業用排水路の整備による湛水被害対策 ----- 1地区を実施 ※ 大久保	▶ 農業用排水路の整備による湛水被害対策 ----- 1地区を実施 ※ 大久保	A
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・大久保地区では、地元及び関係機関と調整を行い、排水路工事を実施した。		
現状分析 課 題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・引き続き、計画的な工事实施に努めるとともに、用地取得を先行して行う。		

## ◆ 地すべり防止区域における農地・国土保全

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 協働による地すべり防止区域の監視 ----- 9地区で実施 ※ 白井、中郷、戸野、中野、高立、栃久保、河振、八木沢、わらび峠 ▶ 機能保全計画（個別施設計画）の策定 ----- 4地区で実施 ※ 白井、中野、八木沢、わらび峠	▶ 協働による地すべり防止区域の監視 ----- 9地区で実施 ※ 白井、中郷、戸野、中野、高立、栃久保、河振、八木沢、わらび峠 ▶ 機能保全計画（個別施設計画）の策定 ----- 4地区で実施 ※ 白井、中野、八木沢、わらび峠	A
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・地域住民及び市町村との協働による地すべり監視体制構築のため、地域住民との監視協定を締結した。 ・地すべりの変位状況確認を行うため、地下水位等の観測業務を委託した。		
現状分析 課 題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・地すべり防止区域指定地区について、地震や台風等の異常気象発生時には、「群馬県耕地地すべり防止施設緊急点検要領」に基づく施設点検を実施する。 ・今後は策定した地すべり防止施設の機能保全計画を踏まえ、地すべり施設の長寿命化対策を実施する。		

## ◆ 石綿を使用した農業用管水路の撤去

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 農業用管水路の改修 ----- 4地区を実施 ※ 前橋北部、榛名東部、赤城原、北ろく赤谷	▶ 農業用管水路の改修 ----- 4地区を実施 前橋北部、榛名東部、赤城原、北ろく赤谷	D
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・円滑な関係機関との協議を図り、計画的に整備を実施し、事業進捗を図った。		
現状分析 課 題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・対策工事の早期効果発現を図るため、適正な工程管理に努めるとともに、関係機関との協議調整等により、今後も円滑な事業推進を図る。		



## 数値目標

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31(R 元) (目標年)
<b>地すべり防止施設の機能保全計画の策定地区数 [地区]</b>						
目標	—	—	—	2	4	6
実績	—	—	—	1	5	9
<b>石綿セメント管の撤去延長 [km]</b>						
目標	—	—	9.7	17.3	25.1	30.3
実績	5.5	6.1	6.3	8.0	9.5	11.5

※ 数値は、累計値。

## ⑭ 農村集落環境の保全 ～ 農村地域の水質環境と生活水準の維持・向上 ～

農業集落排水の施設において、整備後 20 年が経過した施設が増加してきており、老朽化や機能低下が見受けられる状況となっていることから、適時・適切な修繕と更新により施設の長寿命化等を図り、ライフサイクルコストの低減を進める。

## ◆ 施設の長寿命化とライフサイクルコストの低減

	計 画	実 績	評価
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 施設の劣化状況等を調べる機能診断調査 ----- 1 施設を支援 ※ 広馬場</li> <li>▶ 効率的な機能保全対策を定めた最適整備構想の策定 ----- 2 町村を支援 ※ 甘楽町、榛東村</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 施設の劣化状況等を調べる機能診断調査 ----- 1 施設を支援 ※ 広馬場</li> <li>▶ 効率的な機能保全対策を定めた最適整備構想の策定 ----- 2 町村を支援 ※ 甘楽町、榛東村</li> </ul>	A
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・国費及び県費の予算執行手続きを進め、機能診断調査及び最適化構想策定において要望どおりの交付決定を行った。		
現状分析課題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・事業実施に向けた支援を行う。		

## 数値目標

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31(R 元) (目標年)
<b>農業集落排水施設の最適整備構想策定市町村数 [市町村]</b>						
目標	—	—	10	15	20	21
実績	5	6	11	15	20	21

※ 数値は、累計値。

⑮ 中山間地域の振興 ～豊かなむらづくり～ **重点取組**

高齢化や人口減少が進む中山間地域において、集落や多様な組織と連携・協働した体制づくりを支援するとともに、新たな人材等が農業生産を行えるよう整備構想を策定する。

## ◆ 地域全体でコミュニティ機能を維持するための集落内外との連携強化

取組内容	計 画	実 績	評価
	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 集落ぐるみの活動体制づくり支援 ----- 18回のマイスター派遣</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 集落ぐるみの活動体制づくり支援 ----- 16回のマイスター派遣</li> </ul>	<b>B</b>
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・5月末に群馬県農業会議と委託契約を締結した。 ・マイスターを派遣し、地域の課題に対応した。		<b>【中間】 A</b>
現状分析 課 題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・年間をとおして、計画的な派遣となるように進捗管理を行う。		

## ◆ 地域特性を活かした生産基盤整備の推進

取組内容	計 画	実 績	評価
	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 中山間元気創生基盤整備構想の策定 ----- 1地区を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 中山間元気創生基盤整備構想の策定 ----- 1地区を実施</li> </ul>	<b>A</b>
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・県内1地区において、地域特性を活かした整備構想の策定を行った。		
現状分析 課 題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・整備構想を策定した地区において、構想の実現による農業振興を図るため具体的な検討に着手する。 ・来年度は、1地区の実施を予定。		

## ◆ 多様な組織との協働による地域づくりと移住等の受入れ促進

取組内容	計 画	実 績	評価
	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ やま・さと応縁隊による活動調査 ----- 4件を実施</li> <li>▶ 棚田保全活動事業による住民協定 ----- 1件を締結</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ やま・さと応縁隊による活動調査 ----- 5件を実施</li> <li>▶ 棚田保全活動事業による住民協定 ----- 1件を締結</li> </ul>	<b>A</b>
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・やま・さと応縁隊4大学5件と委託契約し、農山村の活性化に向けた活動を実施し、成果発表会を行った。 ・棚田保全活動事業において、新たに1協定を締結し、実施数は8地区となった。 ・地域住民団体による棚田の保全活動を支援した。		
現状分析 課 題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・大学の調査活動が地域の要望を組み入れられるよう調整を図りながら、進捗管理を行う。 ・棚田保全活動の適切な進捗管理を行い、成果がわかるような取りまとめを行う。		

## 数値目標

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31(R元) (目標年)
棚田保全活動事業による住民協定締結数【協定】						
目 標	—	—	6	8	8	8
実 績	2	5	6	7	7	8

※ 数値は、累計値。

## ⑩ グリーン・ツーリズムの推進 ～ 交流による地域の活性化 ～

多彩な地域資源と地域の特性を活かした取り組みを推進するとともに、観光周遊ルートと組み合わせたグリーン・ツーリズムを推進するなど、都市と農村の交流の促進による地域活性化を図る。

## ◆ 地域ぐるみの推進体制づくりと事業展開プログラムの策定

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ グリーン・ツーリズム推進のためのプログラム策定等支援 ----- 5団体を支援	▶ グリーン・ツーリズム推進のためのプログラム策定等支援 ----- 4団体を支援	<b>B</b>
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・4団体の地域連携システム整備事業計画を認定し、地域ぐるみのグリーン・ツーリズムを推進した。		
現状分析 課 題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・グリーン・ツーリズム推進のため、地域の体制整備等きめ細やかな支援を実施する。		

## ◆ 農泊に対する理解と推進

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 群馬の魅力発信強化 ----- 1件を実施	▶ 群馬の魅力発信強化 ----- 1件を実施	<b>A</b>
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・HP「ぐんまのグリーン・ツーリズム」をリニューアルし、群馬のグリーン・ツーリズムの魅力を発信した。		
現状分析 課 題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・地域活性化の方策として、農泊を引き続き推進し、地域の取組を支援していく。		

## 数値目標

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31(R元) (目標年)
公設交流体験施設利用者数 [人]						
目 標	—	—	335,000	341,000	347,000	353,000
実 績	327,737	332,848	339,692	368,606	372,829	366,278

※ 数値は、単年度取組数。

## (2) 協働

- 農地維持・資源向上【重点】
- 地域構想づくり支援
- 農業農村への理解促進

- 農業者を中心とした地域のコミュニティ機能の発揮を促進し、農村の振興と多面的機能の維持・発揮に取り組むとともに、担い手の負担軽減と農地集積等の構造改革を後押しする。
- 農業農村の有する役割や良好な多面的機能の維持・発揮について、県民の理解を促進し、農村地域の維持発展に努める。

### 【当該年度目標の達成状況】(取組5項目)

- 『農地維持・資源向上』において、制度内容の周知やきめ細やかな支援を行ってきたが、事業実施の更新を行わず、活動を取りやめた組織が例年に比べ多く、取組面積が若干減少してしまい目標達成には至らなかったことから、「B」評価とした。

### ① 農地維持・資源向上 ～ 地域コミュニティ機能の発揮 ～ **重点取組**

農業者を中心とした地域のコミュニティ機能の発揮を促進し、農村の振興と多面的機能の維持・発揮に取り組むとともに、担い手の負担軽減と農地集積等の構造改革を後押しする。

#### ◆ 地域ぐるみの活動促進による地域コミュニティ機能の発揮

##### ・ 地域資源の保全活動への支援

	計 画	実 績	評価
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 地域資源の維持・保全が図られた農地 ----- 20,000 ha を支援</li> <li>※ 中部地域 (6,022 ha)、西部地域 (2,709ha)、吾妻地域 (2,519ha)、利根沼田地域 (3,473ha)、東部地域 (5,277 ha)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 地域資源の維持・保全が図られた農地 ----- 17,553 ha を支援</li> <li>※ 中部地域 (4,200 ha)、西部地域 (2,637ha)、吾妻地域 (2,500ha)、利根沼田地域 (3,597ha)、東部地域 (4,619ha)</li> </ul>	<b>B</b>
これまでの取組内容	<p><b>(今年度の取組内容)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動組織等の事務負担軽減を図るため、制度改正や申請・報告様式の見直しに係る研修会を開催した。</li> <li>・活動組織と土地改良区の連携強化を図るため、土地改良区役員研修会及び、国予算キャラバン等において、土地改良区向けの事業説明を行った。</li> </ul>		
現状分析 課 題 今後の予定	<p><b>(現状分析・課題・今後の予定)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関係市町村及び群馬県水土里保全協議会と連携の上、制度改正内容の周知を含む事務研修会等を開催し、活動組織の円滑かつ持続的な取り組みを支援する。</li> <li>・更なる事業推進には、土地改良区との連携が必要不可欠であることから、土地改良区向けの研修会等を開催し、事業の浸透を図る。</li> </ul>		

## ・地域資源の長寿命化に向けた取り組みへの支援

取組内容	計 画	実 績	評価
	▶ 活動組織が行う水路や農道等の長寿命化を支援	▶ 活動組織が行う水路や農道等の長寿命化を支援	A
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・関係市町村及び群馬県水土里保全協議会と連携の上、技術研修会等を開催し、活動組織の円滑かつ適切な長寿命化に向けた取り組みを支援した。		
現状分析課題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・国の制度改正により、工事1件あたり上限額が設定され、活動組織の円滑な取組に支障を及ぼすことが懸念されるが、関係市町村との連携を強化し事業推進を図る。 ・関係市町村及び群馬県水土里保全協議会と連携の上、技術研修会等を開催し、活動組織の円滑かつ適切な長寿命化に向けた取り組みを支援するとともに、計画的な事業執行を促し、持越額の低減を図る。		

## ◆ 地域特性を活かした中山間地域の活動支援

取組内容	計 画	実 績	評価
	▶ 農業生産活動の継続に向けた中山間地域等直接支払制度の活用 ----- 1,647 ha を支援	▶ 農業生産活動の継続に向けた中山間地域等直接支払制度の活用 ----- 1,430 ha を支援	B
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・農業事務所や市町村担当者を参集した会議など様々な機会を通じて、事業制度の理解促進、制度の効率的、積極的な活用を支援する。		
現状分析課題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・目標達成のためにまずは、制度の熟知のための研修会や事務支援等を引き続き実施していく必要がある。畑についても鳥獣害防護策等と併せ推進していく。		

## 数値目標

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31(R元) (目標年)
<b>多面的機能の維持・発揮が図られた農業集落数 [重点]</b>						
目 標	—	—	376	486(408)	561(440)	635(478)
実 績	305	435	486	561	632	656
<b>農地・農業用施設の維持・保全が図られた農地面積 [ha]</b>						
目 標	—	—	15,402	16,426	18,202	20,000
実 績	12,945	13,963	15,585	16,828	17,747	17,553
<b>中山間地域等直接支払交付面積 [ha]</b>						
目 標	—	—	1,378	1,430	1,500	1,647
実 績	1,587	1,372	1,381	1,427	1,427	1,430

※ 数値は、累計値。

※ 実績値が H31(R元)目標値を超えた場合、次年度の目標値に前年度の実績値を標記し、当初目標値を括弧で標記。

## ② 地域構想づくり支援 ～ 地域活性化のための基盤づくり ～

地域で取り組む農地利用集積と、担い手との連携強化への取り組みを推進するとともに、地域による地域資源保全管理構想の話し合いの場等を活用し、地域が描く将来像の検討にモデル的に取り組む。

## ◆ 地域の実情に即した将来像の検討

取組内容	計 画	実 績	評価
	▶ モデル地区の設定及び構想づくり支援 ----- 2地区を支援	▶ モデル地区の設定及び構想づくり支援 ----- 2地区を支援	A
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・中部、利根沼田地域においてモデル地区を設定した。 ・関係市町村と連携し、各モデル地区で取り組む「地域資源保全管理構想」の策定を支援した。		
現状分析 課 題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・関係市町村と協議・調整を図り、モデル地区を設定し、地元が良い将来像が描けるよう支援する。		

## 数値目標

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31(R元) (目標年)
地域構想づくり支援実施モデル地区数 [地区]						
目 標	—	—	1	1	1	8(5)
実 績	1	1	1	1	6	8

※ 数値は、累計値。H31(R元)目標値は、次年度の目標値に前年度の実績値を標記し、当初目標値を括弧で標記。

## ③ 農業農村への理解促進 ～ 円滑な取り組みへの協力 ～

農業農村では、食料の安定供給や多面的機能の維持・発揮など、広く県民がこれらの恩恵を享受していることから、農業農村についての理解促進を図る。

## ◆ 農業農村及び農業農村整備事業への県民の理解促進

取組内容	計 画	実 績	評価
	▶ 県民に対する農業農村整備事業等の周知 ----- 広報委員会による広報活動	▶ 県民に対する農業農村整備事業等の周知 ----- 広報委員会による広報活動	A
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・県内の小学生に対して、農業農村整備事業の理解を促すため、「どろんっ子新聞」を作成し、配布した。 ・農業土木を学ぶ県内外の大学生を対象に、インターンシップを開催し、農業農村整備事業が災害復旧について果たす役割を紹介した。		
現状分析 課 題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・動画スタジオを活用した情報発信できるよう、活動内容の検討を行う。 ・農業農村整備事業の果たす役割について、今後も高校生や大学生を対象に現場見学会等の開催を行っていく。		

## 数値目標

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31(R元) (目標年)
県民への理解促進に向けた広報活動回数 [回/年]						
目 標	—	—	40	40	40	40
実 績	(40)	—	50	40	40	40

※ 過去5年間(H23～27)の平均回数を目標に実施・支援する。また、数値は、単年度取組数。

## 5 実施計画【評価】(地域計画)

### (1) 中部地域 ～ 豊かな農地の創造と農業施設の保全を求め ～

#### 「水」の保全整備

- 農業水利施設について、ストックマネジメント手法による保全対策（補修、補強等）により、維持管理経費等の低減を図り、農業経営の安定化に寄与する。
- 畑地かんがい施設を整備することで、高収益性作物の導入を可能とし、畑作営農の多様化を支援する。
- 土地改良区の維持管理費の低減のため、農業用水を活用した小水力発電施設の整備を推進していくとともに、土地改良区の体制強化に向けて支援する。
- 障害防止対策事業（用水補償対策）で造成された貯水池、基幹水利施設の維持保全体制の構築を行うことで安定した農業生産を支援する。

#### 【当該年度評価の総括】

##### 1 基幹農業水利施設の保全対策の推進

- 管内の土地改良区に対して施設監視要領の周知と施設監視の支援を行った。  
また、4地区で計画していた保全対策工事を実施することができた。

##### 2 土地改良区の体制強化

- 中群馬及び広瀬桃木両用水で、既に策定済みの土地改良区体制強化基本計画について、更新指導を行った。

#### ◆ 農業用水の安定供給

##### ・基幹農業水利施設の保全対策

取組内容	計 画	実 績	評価
	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 機能保全計画に基づく、基幹農業水利施設の保全対策 ----- 4地区を実施 ※ 坂東大堰、大正用水2期、赤城大沼用水3期、山子田</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 機能保全計画に基づく、基幹農業水利施設の保全対策 ----- 4地区を実施 ※ 坂東大堰、大正用水2期、赤城大沼用水3期、山子田</li> </ul>	<b>B</b>
これまでの取組内容	<p><b>(今年度の取組内容)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・赤城大沼用水3期地区及び山子田地区においては、次年度からの工事発注を見据えた実施設計を行った。</li> <li>・大正用水地区の水路改修 430m を進めたほか、坂東大堰地区では大堰本体の改修を終えることができた。</li> </ul>		
現状分析課題 今後の予定	<p><b>(現状分析・課題・今後の予定)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、早期に効果が発現できるよう計画的な農業水利施設の保全を図っていく。</li> <li>また、計画期間内に保全対策に着手できなかった大正用水3期地区は令和2年度、坂東大堰2期地区は令和3年度の着手を目指して事業計画の策定を進めていく。</li> </ul>		

## ・施設の維持管理体制への支援

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 機能保全計画に基づく、施設監視 ----- 10 土地改良区を指導・支援 ※ 大正用水、天狗岩堰、広瀬桃木両用水、八坂堰、佐波新田用水、赤城大沼用水、群馬用水、坂東大堰、中群馬、赤城西麓	▶ 機能保全計画に基づく、施設監視 ----- 10 土地改良区を指導・支援 ※ 大正用水、天狗岩堰、広瀬桃木両用水、八坂堰、佐波新田用水、赤城大沼用水、群馬用水、坂東大堰、中群馬、赤城西麓	A
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・管内 10 土地改良区に対し、施設監視要領の周知や施設監視の支援を行った。このほか、今後の保全対策等について、7 土地改良区と意見交換を行った。		
現状分析 課 題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・中群馬土地改良区及び赤城大沼用水土地改良区の水利施設について、機能保全計画の一部が未策定となっており、令和 3 年度を目標に策定していく。		

## 数値目標

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31(R 元) (目標年)
<b>基幹農業水利施設の保全対策に着手した地区数 [地区]</b>						
目 標	—	—	9	10	12	15
実 績	8	9	9	9	9	11
<b>保全対策により農業用水の安定供給が維持された農地面積 [ha]</b>						
目 標	—	—	3,567	4,341	5,373	5,953
実 績	2,272	2,564	3,438	4,239	4,765	5,202

※ 数値は、累計値。

## ◆ 農業用水を利活用した農業経営と施設管理のコスト低減

## ・畑地かんがい施設の整備

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 赤城西麓地区での畑地かんがい施設の整備 ----- 2 地区を実施 ※ 上狩野、中原	▶ 赤城西麓地区での畑地かんがい施設の整備 ----- 2 地区を実施 ※ 上狩野、中原	A
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・上狩野地区、笠張地区は、共用する導水管路 1.2km の整備を実施したほか、上狩野地区は、給水栓、給水スタンド、散水施設の設置を行った。 ・中原地区は、給水栓の設置に向け地元説明会を実施した。		
現状分析 課 題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・笠張地区は、減圧水槽及び区画整理工事の進捗に合わせ、管路の発注準備を進める。 ・中原地区は、給水栓の設置に向け、地元調整及び発注準備を進める。		



## ・再生可能エネルギーの導入推進

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 小水力発電の推進 ----- 1地区を支援 ※ 小出	▶ 小水力発電の推進 ----- 1地区を支援 ※ 宮川	A
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・小水力発電の導入可能性が見込まれる宮川地区については、現地における発電効率の確認など、実証試験まで実施したものの、水利権の協議が整わず、事業化には繋がらなかった。		
現状分析課題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・導入可能性の見込まれる地区について、引き続き水利権の調整など、事業化に向けた支援を行う。 ・小出地区の発電予定地は、地図混乱地域で境界確定が困難であることから、設置場所の再検討など要することとなった。		

## 数値目標

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31(R元) (目標年)
<b>畑地かんがい施設の整備面積 [ha] 【4年間】</b>						
目 標	—	—	8	8	8	30
実 績	—	—	8	0	20	47
<b>農業用水を活用した小水力発電施設の稼働数 [施設]</b>						
目 標	—	—	—	1	→	1
実 績	—	—	—	1	→	1

※ 数値は、単年度取組数。最終年度のみ累計値。

## ◆ 相馬原地区の施設保全に向けた障害防止対策事業の推進

## ・相馬原地区の施設保全

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ かんがい施設の改修 ----- 2施設と1付帯施設を実施 ※ 榛名幹線水路、祭戸水路、道城西貯水池付帯水路（堂の入沢）	かんがい施設の改修 ----- 2施設と1付帯施設を実施 ※ 榛名幹線水路、祭戸水路、道城西貯水池付帯水路（堂の入沢）	B
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・榛名幹線水路 0.7km、及び道城西貯水池付帯水路（堂の入沢） 0.4km の改修工事を実施した。また、祭戸水路の取水施設工事に着手した。		
現状分析課題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・5次事業計画の完了に向け、残事業を計画的に実施する。6次事業計画においては、関係市町村と計画策定に向けての協議と併せ、防衛省と調整を進める。		

## ・施設の維持管理体制支援

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 貯水池等の適正な維持管理を指導 ----- 1地区を実施 ※ 相馬原	▶ 貯水池等の適正な維持管理を指導 ----- 1地区を実施 ※ 相馬原	A
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・関係市町村と7月に貯水池点検を実施し、施設管理者による適正な管理が行えるよう助言・指導をした。		
現状分析 課 題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・施設管理者による維持管理が適正に行えるよう、今後も関係市町村を支援する。		

## 数値目標

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31(R元) (目標年)
<b>第5次計画における貯水池・附帯施設の改修済数 [施設]</b>						
目 標	—	—	16	17	18	22
実 績	15	15	17	18	20	20
<b>県営障害防止対策事業相馬原地区の維持管理指針の策定数 [指針]</b>						
目 標	—	—	1	→	→	1
実 績	—	—	1	1	1	1

※ 数値は、累計値。

## ◆ 土地改良区の組織体制強化

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 土地改良区体制強化基本計画の更新 ----- 2土地改良区の更新指導 ※ 中群馬、広瀬桃木両用水	▶ 土地改良区体制強化基本計画の更新 ----- 2土地改良区の更新指導 ※ 中群馬、広瀬桃木両用水	A
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・土地改良区を個別訪問し、体制強化基本計画の更新を指導した。 また、広瀬桃木両用水土地改良区と八坂堰土地改良区の統合整備協議会の立ち上げを支援した。 ※ 天狗岩堰土地改良区及び中群馬土地改良区と合併の意向等について意見交換を行った。		
現状分析 課 題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・広瀬桃木両用水土地改良区と八坂堰土地改良区の合併認可申請を支援し、令和2年度の合併を目指す。 ・中群馬土地改良区と天狗岩土地改良区の合併に向けた調整など、各土地改良区の状況に応じた支援を行う。		

## 数値目標

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31(R元) (目標年)
<b>土地改良区体制強化基本計画を策定した土地改良区数 [土地改良区]</b>						
目 標	—	—	6	4	—	10
実 績	—	—	6	4	—	10

※ 土地改良区体制強化基本計画は H29 年度で全て策定済。

## 「土」の保全整備

### 「土」の保全整備

- ▶ 畑地帯の基盤整備を推進し、担い手の育成に資する農地集積を支援するとともに、耕作放棄地の解消・発生防止と農業生産性の向上等を図る。
- ▶ 水田の畦抜きによる大区画化が可能な地域では、簡易整備を支援し、担い手への農地集積を進めるとともに、農業生産性の向上を図る。
- ▶ 基幹的な農道について、施設の長寿命化によるライフサイクルコストの低減を図る保全対策を行い、農業・農村の振興に寄与する。

#### 【当該年度評価の総括】

##### 1 生産基盤の推進

- ▶ 赤城西麓土地改良事業の笠張地区（受益面積 A=25ha）は、本年度に採択を受け、事業に着手した。
- ▶ 集落営農法人等を対象とした研修会などで、農地集積のための簡易整備（畦畔除去）等の事業制度を周知した。

##### 2 農道の保全

- ▶ 赤城南第2地区では、1橋の耐震化工事と2橋の補修工事を実施した。

#### ◆ 条件整備による経営の安定とコスト低減

##### ・畑地帯の基盤整備

	計 画	実 績	評 価
取組内容	▶ 農業生産性の向上と担い手への農地集積を促進するための基盤整備 ----- 4地区を実施 ※ 上細井中西部、上狩野、中原、笠張 ----- 1地区を支援 ※ 境下武士	▶ 農業生産性の向上と担い手への農地集積を促進するための基盤整備 ----- 4地区を実施 ※ 上細井中西部、上狩野、中原、笠張 ----- 1地区を支援 ※ 境下武士	<b>B</b>
これまでの取組内容	<b>（今年度の取組内容）</b> ・上細井中西部地区では、区画整理工 14.7ha を実施した。 ・中原地区では、道路、排水路などの付帯工事を実施した。 ・上狩野地区では、道路、排水路などの付帯工事を実施した。 ・笠張地区では、換地計画原案の策定に向けた地区境界の確定及び従前地の評価と、実施設計に着手した。 ・境下武士地区では、換地処分を行う土地改良区を支援した。		
現状分析 課 題 今後の予定	<b>（現状分析・課題・今後の予定）</b> ・上細井中西部地区、中原地区及び上狩野地区では、引き続き、早期の効果発現のため計画的な工事の実施を行う。 ・笠張地区は、換地計画原案の策定及び実施設計を行い、計画的な工事の実施を進める。		

## ・水田地帯の簡易整備

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 農地集積のための簡易な整備 ----- 1地区を支援 ※ 前橋市(畦畔除去)	▶ 農地集積のための簡易な整備 ----- 1地区を支援 ※ 前橋市(畦畔除去)	C
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・前橋市集落営農法人運営支援研修会や前橋市集落営農塾において、農地集積のための簡易整備(畦畔除去)等の事業制度を周知したものの、地域からの要望がなく具体的な支援ができなかった。		
現状分析 課 題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・地域の実情に合わせて、農地集積のための簡易整備(畦畔除去)を支援する。		

## ・基幹農道の保全対策

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 保全対策計画に基づく、保全対策 ----- 1地区を実施 ※ 赤城南第2	▶ 保全対策計画に基づく、保全対策 ----- 1地区を実施 ※ 赤城南第2	C
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・1橋の耐震化工事と2橋の補修工事を実施した。 ・2橋の橋面防水及び舗装工事0.1kmを実施した。		
現状分析 課 題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・橋梁の耐震化と補修、及び擁壁の補強工事を優先したため、事業量の進捗が遅延した。 ・工事の計画的な発注に努め、効果の早期発現を図る。		

## 数値目標

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31(R元) (目標年)
<b>区画整理による整備面積(水田・畑)[ha]【4年間】</b>						
目 標	—	—	32.2	58.6	84.6	120.0
実 績	—	—	25.4	33.9	82.0	98.1
<b>簡易な整備手法により区画拡大をした面積[ha]【4年間】</b>						
目 標	—	—	7.0	10.0	11.0	12.0
実 績	—	—	0.0	5.3	6.0	6.0
<b>基幹的な農道の保全対策の実施延長[km]</b>						
目 標	—	—	8.8	10.6	11.5	11.5
実 績	7.4	8.2	8.2	9.0	9.0	9.1

※ 数値は、累計値。

## ◆ 農地集積への道筋を付ける農地整備

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 農地中間管理事業を活用した農地集積の促進 ----- 4地区で推進 ※ 上狩野、中原、笠張、上細井中西部	▶ 農地中間管理事業を活用した農地集積の促進 ----- 4地区で推進 ※ 上狩野、中原、笠張、上細井中西部	A
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・上細井中西部地区では、農地中間管理事業を活用した農地集積を推進した。 ・上狩野地区及び中原地区では、基盤強化促進法等による農地集積から農地中間管理事業による転貸を促すための要請を行った。		
現状分析 課 題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・引き続き、農地中間管理事業の活用を促進するための取り組みを行う。		

## 数値目標

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31(R元) (目標年)
農地中間管理事業との連携を推進した区画整理の地区数 [地区]						
目 標	—	—	5	4	4	全計画・実施地区
実 績	—	—	5	3	3	6

※ 数値は、単年度取組数。

## ◆ 地域ぐるみで野生鳥獣被害の一掃を目指して

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 基盤整備と侵入防止施設の連携 ----- 1市で実施 ※ 渋川市(中原) ▶ 侵入防止柵等の設置 ----- 1市を支援 ※ 前橋市	▶ 基盤整備と侵入防止施設の連携 ----- 1市で実施 ※ 渋川市(中原) ▶ 侵入防止柵等の設置 ----- 1市を支援 ※ 前橋市	A
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・前橋市の1地区において侵入防止柵の設置を支援したほか、渋川市の中原地区では、侵入防止グレーチング5箇所を設置を行った。		
現状分析 課 題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・引き続き、地域の要望に対して支援できる体制をとるとともに、設置した施設が適正に維持管理できるよう、指導・助言を行う。		

## 数値目標

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31(R元) (目標年)
野生鳥獣被害防止対策を支援した市町村数 [市町村]						
目 標	—	—	2	2	2	2
実 績	(2)	—	2	3	2	3

※ 基準年の( )内は、過去4年間(H25～27)の実績であり、4年間で同数の実施・支援を目指した。

数値は単年度取組数。なお、最終年度は市町村(年度の重複を除く)の累計値。

## 「里」の保全整備

- 地域の安全な生活を確保するため、ため池及び農業用貯水池の施設規模に応じた耐震性調査による安全性確認を推進・支援するとともに、必要に応じて改修等を行い、地域の防災減災に取り組む。
- 農業集落排水施設については、ストックマネジメント手法による保全対策（補修、補強等）により、維持管理経費の低減、生活環境の維持等を図る。

## 【当該年度評価の総括】

## 1 安全な地域づくり

- ため池の保全整備及び石綿飛散防止のための石綿管の布設替えについては、概ね目標を達成することができた。
- 防災重点ため池については、策定済みのハザードマップの公表や新たな耐震調査を行い、概ね目標を達成することができた。

## 2 農村生活環境の整備

- 農業集落排水事業については、前橋市込皆戸地区ほか4地区で施設の機能強化等を実施した。

## ◆ 災害発生前の被害想定による安全確保

## ・ため池の保全

	計 画	実 績	評価
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 早期に改修が必要なため池の保全整備 ----- 1地区を実施</li> <li>※ 中野貯水池</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 早期に改修が必要なため池の保全整備 ----- 1地区を実施</li> <li>※ 中野貯水池</li> </ul>	<b>A</b>
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・中野貯水池では、堤体の漏水対策工事を実施した。		
現状分析 課 題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・引き続き、防災重点ため池等で対策が必要なため池については、緊急度などを考慮し、優先順に対策を進めていく。		

## ・農業水利施設の耐震性調査

	計 画	実 績	評価
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ ため池の豪雨に対する照査 ----- 1地区（10施設）を支援</li> <li>※ 前橋第6（10施設）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ ため池の耐震性照査 ----- 1地区（2施設）を支援 2地区を実施</li> <li>※ 前橋第6（五料沼、原貯水池） 桃泉貯水池、鈴峰貯水池</li> </ul>	<b>B</b>
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・ため池の豪雨に対する照査について調整や協議を行った。そのほか、桃泉貯水池は、レベル2地震動に対する照査を開始し、鈴峰貯水池は、レベル1地震動に対する照査を実施した。		
現状分析 課 題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・防災重点ため池の見直しにより、新たに指定されたため池など、引き続き、耐震性照査や豪雨に対する照査を進めていく。また、桃泉貯水池は、引き続きレベル2地震動に対する照査を進める。		

## 数値目標

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31(R 元) (目標年)
<b>耐震性能を確認したため池数 [地区]</b>						
目 標	—	—	29	38	46	46
実 績	22	22	29	40	41	44
<b>ハザードマップの作成を支援したため池数 [ヶ所]</b>						
目 標	—	—	18	30	46	46
実 績	15	15	18	31	44	55
<b>老朽ため池の改修済地区数 [地区]</b>						
目 標	—	—	1	1	1	2
実 績	—	—	0	1	1	2
<b>耐震性能を確認した農業水利施設 (ため池除く) 数 [施設]</b>						
目 標	—	—	12	52	55	55
実 績	—	—	55	55	55	55

※ 数値は、累計値。

## ◆ 石綿の飛散防止と計画的な整備

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 農業用管水路の改修 ----- 2地区を実施 ※ 前橋北部、榛名東部	▶ 農業用管水路の改修 ----- 2地区を実施 ※ 前橋北部、榛名東部	<b>B</b>
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・ 農業用管水路の改修に併せて石綿管 490m の撤去を行った。		
現状分析 課 題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・ 前橋北部地区及び榛名東部地区においては、引き続き対策工事を実施するほか、新たに富士見地区の事業化を進める。		

## 数値目標

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31(R 元) (目標年)
<b>石綿セメント管の撤去延長 [km]</b>						
目 標	—	—	3.5	4.7	5.6	5.9
実 績	3.0	3.3	3.5	4.0	5.1	5.6

※ 数値は、累計値。

## ◆ 農村生活環境の更なる向上とコスト低減

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 農業集落排水施設の機能強化 ----- 5地区を支援 ※ 込皆戸、二之宮、前橋東部、上増田、長岡	▶ 農業集落排水施設の機能強化 ----- 5地区を支援 ※ 込皆戸、二之宮、前橋東部、上増田、長岡	<b>A</b>
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・5地区の農業集落排水施設で実施する機能強化を支援した。		
現状分析 課 題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・引き続き、込皆戸地区、二之宮地区、前橋東部地区及び長岡地区の機能強化、樋越地区及び米野地区の調査計画を支援する。		

## 数値目標

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31(R 元) (目標年)
農業集落排水施設の最適整備構想策定市町村数 [市町村]						
目 標	—	—	3	5	5	5
実 績	1	2	4	5	5	5

※ 数値は、累計値。

## 「協働」

- ▶ 農業者及び地域住民が協働で行う地域づくりを通じて、農業農村の有する多面的機能の維持・発揮を図る。
- ▶ 末端農業水利施設の維持保全について、地域が共同活動により取り組む体制整備を支援する。
- ▶ 農業生産の持続を目的とした小規模基盤整備の推進及び水田管理への地域住民の参画を推進する。

## 【当該年度評価の総括】

## 1 協働活動への支援

- ▶ 多面的機能支払について、事業制度の周知や説明会を実施した結果、新たに3組織で取り組みが始まり、農地維持支払では63組織4,200haで取り組むことができた。



## ◆ 地域の活力による農地等の資源保全

## ・地域資源の保全活動への支援

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 地域資源の維持・保全が図られた農地 ----- 4,520 ha を支援	▶ 地域資源の維持・保全が図られた農地 ----- 4,200 ha を支援	C
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・関係市町村と連携して、地域が取り組む協働活動を支援した。 ・赤城西麓の中原地区では、侵入防止柵等の維持管理に向けて、多面的機能支払交付金の活用について説明を行った。		
現状分析 課 題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・集落数は目標を上回っているが、高齢化や中核となる人材の不足により維持・保全の図られた農地面積が目標に達しなかった。 ・引き続き関係市町村と連携して制度周知を図るとともに、既存組織による広域化や群馬用土地改良区の管理区単位での新たな地区の立ち上げなどの支援を行う。		

## ・地域構想づくりの支援

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 地域構想づくりの支援 ----- 1 地区を支援	▶ 地域構想づくりの支援 ----- 1 地区を支援	A
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・多面的機能支払交付金の活動に取り組む伊勢崎市の田中島地区において、多面的機能支払交付金のフォローアップに併せて、地域の課題や将来像の検討について支援した。		
現状分析 課 題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・新たに取り組みを始めた組織などを対象に、引き続き、地域資源構想の策定などについて支援をする。		

## 数値目標

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31(R 元) (目標年)
<b>多面的機能の維持・発揮が図られた農業集落数 [集落]</b>						
目 標	—	—	87	102(96)	123 (105)	150(115)
実 績	72	96	102	123	150	153
<b>農地・農業用施設の維持・保全が図られた農地面積 [ha]</b>						
目 標	—	—	4,842	5,020	5,430	6,022
実 績	4,296	4,323	4,422	4,198	4,467	4,200
<b>地域構想づくり支援実施モデル地区数 [地区]</b>						
目 標	—	—	—	—	→	2 (1)
実 績	—	—	—	—	1	2

※ 数値は累計値。

※ 実績値が H31(R 元)目標値を超えた場合、次年度の目標値に前年度の実績値を標記し、当初目標値を括弧で標記。

## (2) 西部地域 ～ 地域がはぐくんだ歴史ある農業用水路の継承と農地整備の促進 ～

## 「水」の保全整備

- 農業用水の安定供給を図るため、農業水利施設の計画的な保全と適切な維持管理体制の確立を支援し、後世へ歴史的な農業用水を継承する。
- 土地改良区による適正な水管理や継続的な安定運営を支援し、農業水利施設の保管理体制を構築する。

## 【当該年度評価の総括】

## 1 農業水利施設の計画的な保全

- 歴史的な農業水利施設を保全するため、小幡地区において景観に配慮した整備を行った。

## 2 土地改良区の体制強化

- 土地改良区体制強化基本計画に基づく土地改良区の体制強化について、日常業務や5土地改良区へ訪問し、課題等に対する共通認識を図るとともに、体制強化の方策等について意見交換を行った。

## ◆ 農業水利施設の計画的な保全

## ・ストックマネジメントによる保全対策の推進

	計 画	実 績	評価
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 機能保全計画に基づく、基幹農業水利施設の保全対策の推進</li> <li>----- 4地区を実施</li> <li>※ 上落合、藤岡中央、人見堰、神流川用水</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 機能保全計画に基づく、基幹農業水利施設の保全対策の推進</li> <li>----- 未実施</li> <li>※ 上落合、藤岡中央、人見堰、神流川用水</li> </ul>	D
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・保全対策の事業化に向け、関係機関との調整を行った。		
現状分析 課 題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・地元調整の遅れや水利権に関わる他部門協議ができなかったことにより、目標としていた地区数に着手できなかった。 ・各施設管理者からの情報、聞き取りに基づき、施設に関連する他事業との調整、進捗状況を確認し、対策時期の検討を行った。 ・引き続き保全対策の事業化に向けた関係機関との調整を進める。		

## ・歴史的農業水利施設の継承

	計 画	実 績	評価
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 景観に配慮した用水施設整備</li> <li>----- 1地区を実施</li> <li>※ 小幡</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 景観に配慮した用水施設整備</li> <li>----- 1地区を実施</li> <li>※ 小幡</li> </ul>	A
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・洗い場や石積水路 L=145m の景観に配慮した工法により整備を進めた。		
現状分析 課 題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・引き続き、景観に配慮した工法により整備を進めていく。		

## ・業務継続計画（BCP）策定の推進

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ BCP 策定を支援 ----- 1 土地改良区を支援 ※ 甘楽多野用水	▶ BCP 策定を支援 ----- 1 土地改良区を支援 ※ 甘楽多野用水	A
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・業務継続計画の策定に向けた意見交換など行い、1 土地改良区が策定した。		
現状分析 課 題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・策定後の計画の見直しなど引き続き指導・支援を行う。		

## 数値目標

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31(R 元) (目標年)
<b>基幹農業水利施設の保全対策に着手した地区数 [地区]</b>						
目 標	—	—	2	2	5	6
実 績	—	2	2	2	2	2
<b>保全対策により農業用水の安定供給が維持された農地面積 [ha]</b>						
目 標	—	—	542	554	645	1,121
実 績	—	—	306	392	599	599
<b>業務継続計画を策定した土地改良区数 [土地改良区]</b>						
目 標	—	—	—	→	→	3
実 績	—	—	—	—	2	3

※ 数値は、累計値。

## ◆ 土地改良区の体制強化

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 土地改良区体制強化の促進 ----- 15 土地改良区の支援 ※ 管内 15 土地改良区	▶ 土地改良区体制強化の促進 ----- 15 土地改良区の支援 ※ 管内 15 土地改良区	A
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・日常業務や 5 土地改良区への訪問により、管内土地改良区の課題把握、意見交換を行った。		
現状分析 課 題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・引き続き日常業務や改良区訪問等で課題把握に努め、体制強化に係る支援や必要により計画の見直しを行う。		

## 数値目標

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31(R 元) (目標年)
<b>土地改良区体制強化基本計画を策定した土地改良区数 [土地改良区]</b>						
目 標	—	—	5	5	—	15
実 績	—	—	10	5	—	15

※ 数値は、単年度取組数。最終年度のみ累計値。

## 「土」の保全整備

- ▶ 安定した農業経営を支援するため、平坦地における水田整備と中山間地域の畑地整備を進め、担い手への農地集積を促進する。
- ▶ 碓氷川流域における農地の土壌汚染対策を進める。

## 【当該年度評価の総括】

## 1 基盤整備の推進と担い手の育成

- ▶ 基盤整備の推進及び実施において、限られた予算の中で地権者の要望に応えられるよう検討を行い整備に取り組んだほか、団体営事業や土壌汚染対策の推進を支援した。

## 2 農地中間管理事業等を活用した農地集積の促進

- ▶ 関係機関と連携し、機会を捉えて事業制度の周知を図るとともに、松義西部地区は、農地中間管理事業を活用して、1.75haの農地集積を支援した。

## 3 野生鳥獣被害防止対策の推進及び支援

- ▶ 小規模農村整備事業などの補助事業の活用を推進し、侵入防止柵の設置を進め農作物の被害軽減のための対策を支援した。

## ◆ 基盤整備の推進

## ・ 基盤整備の推進

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 農業生産性の向上と担い手への農地集積を促進するための基盤整備 ----- 4地区を実施 ※ 松義西部、下戸塚、笹川沿岸、牛田川除 ----- 1地区を支援 ※ 宇田・一ノ宮	▶ 農業生産性の向上と担い手への農地集積を促進するための基盤整備 ----- 4地区を実施 ※ 松義西部、下戸塚、笹川沿岸、牛田川除 ----- 1地区を支援 ※ 宇田・一ノ宮	C
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・各地区で委託業務や工事の発注を行い、A=12.0haの事業進捗を図った。		
現状分析 課 題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・過年度からの予算不足及び新規地区における地元調整が遅れたため、目標としていた整備面積に達しなかった。 ・整備遅延地区は、整備量の進捗を図るため、執行見直しや発注に必要な調整を進める。		

## ・ 土壌汚染対策の推進

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 対策に向けた調査 ----- 1地区を実施 ※ 碓氷川流域	▶ 対策に向けた調査 ----- 1地区を実施 ※ 碓氷川流域	A
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・対策処方に基づく土地改良事業計画を定めるため、関係機関と連携し地元調整等を進めた。		
現状分析 課 題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・引き続き、碓氷川流域地区の排客土計画を安中市や技術支援課などの関係機関と連携し、調整を進めるとともに、対策処方にに基づき、土地改良事業計画を早期に定める。		

## 数値目標

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31(R 元) (目標年)
区画整理による整備面積(水田・畑)[ha]【4年間】						
目標	—	—	17.4	60.1	88.8	105.0
実績	—	—	17.1	40.0	70.9	82.9

※ 数値は、累計値。

## ◆ 農地中間管理事業等を活用した農地集積の促進

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 農地中間管理事業を活用した農地集積の促進 ----- 5地区で推進 ※ 松義西部、下戸塚、笹川沿岸、牛田川除、保美	▶ 農地中間管理事業を活用した農地集積の促進 ----- 5地区で推進 ※ 松義西部、下戸塚、笹川沿岸、牛田川除、保美	A
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・会議等において、農地中間管理事業の制度周知及び農地の集積を支援した。		
現状分析課題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・引き続き農地中間管理事業を活用した農地集積の促進を図る。		

## 数値目標

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31(R 元) (目標年)
農地中間管理事業と連携した区画整理の地区数[地区]						
目標	—	—	5	5	→	全計画・実施地区
実績	—	—	5	6	5	5

※ 数値は、累計値。

## ◆ 野生鳥獣被害防止対策の推進及び支援

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 侵入防止柵等の設置 ----- 6市町村を支援 ※ 高崎市、富岡市、安中市、下仁田町、南牧村、甘楽町	▶ 侵入防止柵等の設置 ----- 4市町村を支援 ※ 富岡市、安中市、南牧村、甘楽町	A
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・4団体に対する侵入防止柵の設置を支援した。		
現状分析課題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・引き続き野生鳥獣被害の状況把握を行い、野生鳥獣被害防止対策の推進を図る。		

## 数値目標

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31(R 元) (目標年)
野生鳥獣被害防止対策を支援した市町村数[市町村]						
目標	—	—	3	4	5	6
実績	(6)	—	3	7	5	8

※ 基準年の( )内は、過去4年間(H25～27)の実績であり、4年間で同数の実施・支援を目指した。  
 数値は、単年度取組数。なお、最終年度は市町村(年度の重複を除く)の累計値。

## 「里」の保全整備

- ▶ 高齢化や人口減少などにより離農の進んでいる中山間地域の集落機能や農地の維持を図る。
- ▶ 老朽ため池の保全や地すべり防止区域における対策を講じ、危機管理対策を進めることで、農業の安定経営と地域の保全を図る。
- ▶ 生態系や環境に配慮し、豊かな自然環境の保全を図る。

## 【当該年度評価の総括】

## 1 中山間地域の維持

- ▶ 中山間地域の活性化を図るため、南牧村において策定した基盤整備構想を活用し、給水施設工事をを行った。

## 2 安心安全な地域づくり

- ▶ 高崎市及び藤岡市内のため池において、耐震化対策等の事業推進を行った。
- ▶ 地すべり防止区域において、地域住民などとの協働により施設の監視を行った。

## 3 生態系や自然環境への配慮

- ▶ 絶滅危惧種や天然記念物として指定されている希少な動植物を保護するため、関係機関と調整を図り、生態系や自然環境に配慮した追跡調査等を実施した。

## ◆ 安心安全な地域づくり

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 老朽化及び耐震対策の推進 ----- 5地区を支援 ※ 穂積ため池、大谷・牛秣、齊渡ため池、法京ため池、万松寺貯水池	▶ 老朽化及び耐震対策の推進 ----- 3地区を支援 ※ 穂積ため池、大谷・牛秣	<b>B</b>
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・堤体の老朽化対策及び耐震対策工事の発注を行った。 ・防災重点ため池の見直しに合わせ、次年度の調査実施の手続きを支援した。		
現状分析課題今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・工事実施ため池は、執行計画に基づき対策を進めると共に早期効果発現を図る。		

## 数値目標

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31(R元) (目標年)
<b>耐震性能を確認したため池数 [地区]</b>						
目 標	—	—	22	23	24	25
実 績	18	20	22	22	22	22
<b>ハザードマップの作成を支援したため池数 [ヶ所]</b>						
目 標	—	—	15	16	17	18
実 績	13	13	15	15	20	21

※ 数値は、累計値。

## ◆ 地すべり防止対策

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 協働による地すべり防止区域の監視 ----- 8地区で実施 ※ 白井、中郷、戸野、中野、高立、栃久保、河振、八木沢	▶ 協働による地すべり防止区域の監視 ----- 8地区で実施 ※ 白井、中郷、戸野、中野、高立、栃久保、河振、八木沢	A
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・地元住民及び関係市町村との協働による施設点検などの管理体制を整備した。 ・白井地区、中野地区及び八木沢地区の地すべり防止施設の機能保全計画を策定した。		
現状分析 課 題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・河振地区で令和元年台風第19号豪雨により末端の地すべりが発生したことから、防止区域全体の地すべりの兆候を調査し、必要な地すべり防止対策計画を策定する。		

## 数値目標

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31(R元) (目標年)
地すべり防止施設の機能保全計画の策定地区数 [地区]						
目 標	—	—	—	1	→	5
実 績	—	—	—	1	4	8

※ 数値は、単年度取組数。最終年度のみ累計値。

## ◆ 生態系や自然環境への配慮

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 生態系等に配慮した整備及び調査 ----- 4地区を実施 ※ 下戸塚、笹川沿岸、牛田川除、宇田・一ノ宮	▶ 生態系等に配慮した整備及び調査 ----- 4地区を実施 ※ 下戸塚、笹川沿岸、牛田川除、宇田・一ノ宮	A
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・宇田・一ノ宮地区において、水生動物に配慮した水路整備を行った。 ・生態系等に配慮した水路などの対策結果を調査した。		
現状分析 課 題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・引き続き、整備後の水路等において、地域住民等と連携を図りながら、生態系保全に係る検討を進めると伴に対策結果を調査する。		

## 数値目標

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31(R元) (目標年)
生態系に配慮した整備ヶ所数 [ヶ所]						
目 標	—	—	2	2	2	4
実 績	—	—	1	2	2	4

※ 数値は、単年度取組数。最終年度のみ累計値。

## 「協働」

- 農業生産活動により維持されてきた多面的機能の保全を図る。
- 地域の自主的な活動を支援し、農村地域の活性化を図る。

## 【当該年度評価の総括】

## 1 多面的機能支払交付金等を活用した地域活動の支援

- 多面的機能支払交付金の推進を行い、新たに2組織(内広域化1組織)での取り組みに繋げることができた。

## ◆ 多面的機能支払交付金等を活用した地域活動の支援

## ・ 多面的機能支払交付金等の推進

取組内容	計 画	実 績	評価
	➤ 地域資源の維持・保全が図られた農地 ----- 2,709 ha を支援	➤ 地域資源の維持・保全が図られた農地 ----- 2,637 ha を支援	B
これまでの取組内容	(今年度の取組内容) ・ 1地区の新規立ち上げ、1地区の広域組織化を支援した。		
現状分析 課 題 今後の予定	(現状分析・課題・今後の予定) ・引き続き、関係市町村の取り組みなどを支援するとともに、土地改良区の役員会などで事業制度の周知を図り、新たな取り組みを促す。		

## ◆ 地域の実情に即した将来像の検討

取組内容	計 画	実 績	評価
	➤ モデル地区における構想づくり支援 ----- 1地区を支援	➤ モデル地区における構想づくり支援 ----- 1地区を支援	A
これまでの取組内容	(今年度の取組内容) ・モデル地区である碓氷川右岸農地維持協議会へのアンケート調査の実施、意見交換を行い、将来の 地域資源の保全管理構想を策定した。		
現状分析 課 題 今後の予定	(現状分析・課題・今後の予定) ・引き続き、多面的機能支払交付金の活動を通じて支援を行う。		

## 数値目標

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31(R元) (目標年)
多面的機能の維持・発揮が図られた農業集落数 [集落]						
目 標	—	—	71	115(73)	113(75)	152(76)
実 績	56	68	115	113	152	166
農地・農業用施設の維持・保全が図られた農地面積 [ha]						
目 標	—	—	2,035	2,363	2,370	2,709
実 績	1,701	1,873	2,363	2,281	2,668	2,637
地域構想づくり支援実施モデル地区数 [地区]						
目 標	—	—	—	→	→	1
実 績	—	—	—	—	—	1

※ 数値は、累計値。

※ 実績値が H31(R元)目標値を超えた場合、次年度の目標値に前年度の実績値を標記し、当初目標値を括弧で標記。



## (3) 吾妻地域 ～ あがつまの農業・農村の可能性を飛躍させるために ～

## 「水」の保全整備

- 農業水利施設の適時適切な保全対策により、施設の維持管理費を低減するなど地域農業を維持保全する。
- 営農用水を確保することにより、高原野菜の品質や高い生産性を維持する。
- 農業用水を活用した小水力発電施設整備を支援し、農業用水の維持管理費の低減に向けて、再生可能エネルギーの導入を推進する。

## 【当該年度評価の総括】

## 1 農業水利施設の保全管理

- 美野原2期地区の鷲尾沢掛樋について、次年度の耐震化対策に向けた実施設計を取りまとめた。

## 2 高原野菜の営農用水の確保

- 干俣地区において、営農労力の省力化に向けた管路工2.3km、受水槽1基の整備を実施した。

## 3 再生可能エネルギーの導入促進

- 中之条町美野原用水において、小水力発電施設の安定した運転に向けた支援を行った。

## 4 土地改良区の運営体制強化推進

- 6土地改良区に対し、土地改良区体制強化基本計画の推進に向けた支援を行った。

## ◆ 農業水利施設の保全管理

取組内容	計 画	実 績	評価
	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 機能保全計画に基づく、基幹農業水利施設の保全対策 ----- 1地区を実施 ※ 美野原2期</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 機能保全計画に基づく、基幹農業水利施設の保全対策 ----- 1地区を実施 ※ 美野原2期</li> </ul>	A
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・鷲尾沢掛樋について、次年度の円滑な耐震化対策に向けた実施設計を取りまとめた。		
現状分析課題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・鷲尾沢掛樋の耐震化対策において、施設周辺の地形や近接家屋への対応など、施工条件が非常に厳しいため、早期の工事着手が可能となるよう、地元地権者及び関係機関等との協議・調整を図る。		

## 数値目標

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31(R元) (目標年)
<b>基幹農業水利施設の保全対策に着手した地区数 [地区]</b>						
目 標	—	—	1	1	1	1
実 績	1	1	1	1	1	2
<b>保全対策により農業用水の安定供給が維持された農地面積 [ha]</b>						
目 標	—	—	206	206	206	206
実 績	18	89	104	129	206	206

※ 数値は、累計値。

## ◆ 高原野菜の営農用水の確保

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 水管理及び営農労力の省力化のための整備 ----- 管路工の実施 ※ 千俣	▶ 水管理及び営農労力の省力化のための整備 ----- 管路工の実施 ※ 千俣	A
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・ 営農労力の省力化に向けた管路工 2.3km、受水槽 1 箇所の整備を実施した。 ・ また次年度の円滑な事業推進に向けて、受水槽 2 箇所の実施設計を取りまとめた。		
現状分析 課 題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・ 引き続き水管理及び営農労力の省力化に向け、事業の進捗を図る。 ・ 建設業者が台風第 19 号に係る早期の災害復旧工事を優先的に実施しているため、円滑な管路工並びに受水槽設置に向け、地元関係者、建設業者、及び関係機関等との協議、調整を図る。		

## 数値目標

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31(R 元) (目標年)
営農用水確保のための事業着手地区 [地区]						
目 標	—	—	—	1	→	1
実 績	—	—	—	1	→	1

※ 数値は、単年度取組数。

## ◆ 再生可能エネルギーの導入促進

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 小水力発電施設の運営 ----- 1 地区を支援 ※ 中之条	▶ 小水力発電施設の運営 ----- 1 地区を支援 ※ 中之条	A
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・ 安定した発電用水確保に向け、美野原土地改良区から夜間の用水の取水制限の呼びかけや、落ち葉等による除塵機の目詰まりを減らすため、多面的機能支払交付金で水路に盖板を設置するなど、土地改良区と協力し支援を行った。		
現状分析 課 題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・ 安定運転に必要な発電用水確保のための調整を美野原土地改良区と協力し支援する。		

## 数値目標

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31(R 元) (目標年)
農業用水を活用した小水力発電施設の稼働数 [施設]						
目 標	—	—	—	1	→	1
実 績	—	—	—	1	→	1

※ 数値は、単年度取組数。最終年度のみ累計値。

## ◆ 土地改良区の運営体制強化推進

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 土地改良区体制強化基本計画の推進 ----- 6 土地改良区の支援 ※ 美野原、孺恋、青山市城、中之条沢田用水、横尾、岡崎用水	▶ 土地改良区体制強化基本計画の推進 ----- 6 土地改良区の支援 ※ 美野原、孺恋、青山市城、中之条沢田用水、横尾、岡崎用水	A
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・土地改良区の抱える課題を把握するため巡回訪問して聴き取りを行い、この結果を意見交換会で検討し、共通認識を高めた。		
現状分析 課 題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・法改正による貸借対照表の作成に備えて、施設管理の重要性を周知することにより、きめ細かい支援を行う。		

## 数値目標

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31(R 元) (目標年)
土地改良区体制強化基本計画を策定した土地改良区数 [土地改良区]						
目 標	—	—	1	2	4	6
実 績	—	—	0	2	4	6

※ 数値は、単年度取組数。最終年度のみ累計値。

## 「土」の保全整備

- ▶ 担い手への農地集積を図り、生産性と収益性の高い農業経営を目指す。
- ▶ 吾妻地域は、県内でも野生鳥獣被害が多いことから、侵入防止柵等の設置を支援するなど、農作物被害を軽減し安定的な農業経営を目指す。
- ▶ 基幹的な農道の適時適切な保全対策を行うことにより、地域の農産物輸送の経路を維持保全する。

## 【当該年度評価の総括】

## 1 事業を契機とした担い手への農地集積

- ▶ 仙之入地区では、農道整備による営農条件を改善し、担い手へ農地を集積した。

## 2 野生鳥獣被害の防止

- ▶ 高山村、東吾妻町の2町村の侵入防止柵設置を支援した。

## 3 生産・流通と農村地域の生活を支える農道機能の発揮

- ▶ 農道保全対策計画に基づく路面補修 1.6km 及び2橋の橋梁補修を実施した。

## ◆ 事業を契機とした担い手への農地集積

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 営農条件改善のための整備 ----- 農道整備の実施 ※ 仙之入	▶ 営農条件改善のための整備 ----- 農道整備の実施 ※ 仙之入	A
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・ 営農条件改善に向けた農道整備工 L=0.4km の整備を実施した。 ・ 次年度の円滑な事業推進に向けて、調整池兼沈砂池及び農道整備に係る実施設計を取りまとめた。また、年度内に用地買収契約並びに移転登記を完了した。		
現状分析 課 題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・ 引き続き営農条件改善並びに土砂流出の防止に向け、事業推進を図る。 ・ 建設業者が台風第 19 号に係る早期の災害復旧工事を優先的に実施しているため、円滑な農道整備並びに調整池兼沈砂池の設置に向け、地元関係者、建設業者、及び関係機関等との協議、調整を図る。		

## 数値目標

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31(R 元) (目標年)
農業農村整備事業実施区域内の農地集積率 [%]						
目 標	—	—	50	50	52	50%以上
実 績	47	47	47	52	54	57

※ 数値は、単年度取組値。

## ◆ 野生鳥獣被害の防止

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 侵入防止柵等の設置 ----- 1 町を支援 ※ 東吾妻町	▶ 侵入防止柵等の設置 ----- 2 町村を支援 ※ 高山村、東吾妻町	A
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・ 小規模農村整備事業でイノシシ除け等の電気柵の設置を支援した。		
現状分析 課 題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・ 農作物被害の軽減、農業経営の安定化のため、早期の事業完了に向け支援する。 ・ 引き続き管内の野生鳥獣被害対策を推進する。		

## 数値目標

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31(R 元) (目標年)
野生鳥獣被害防止対策を支援した町村数 [町村]						
目 標	—	—	2	2	3	3
実 績	(3)	—	2	3	3	4

※ 基準年の ( ) 内は、過去 4 年間 (H25~27) の実績であり、4 年間で同数の実施・支援を目指した。

数値は単年度取組数。なお、最終年度は市町村 (年度の重複を除く) の累計値。

## ◆ 生産・流通と農村地域の生活を支える農道機能の発揮

	計 画	実 績	評価
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 保全対策計画に基づく、保全対策 ----- 3地区を実施</li> <li>※ 中之条、大笹、榛名西麓1期</li> <li>▶ 保全対策計画に基づく、橋梁補修 ----- 2地区を実施</li> <li>※ 中之条、大笹</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 保全対策計画に基づく、保全対策 ----- 3地区を実施</li> <li>※ 中之条、大笹、榛名西麓1期</li> <li>▶ 保全対策計画に基づく、橋梁補修 ----- 2地区を実施</li> <li>※ 中之条、大笹</li> </ul>	<b>C</b>
これまでの取組内容	<p><b>(今年度の取組内容)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中之条地区では、路面補修 L=0.18km、横断暗渠補修 2箇所、及び笛吹橋上部工補修を実施した。</li> <li>・大笹地区では、路面補修 L=0.88km 及び三子沢橋の下部工補修を実施した。</li> <li>・榛名西麓1期地区において、路面補修 L=0.51km を実施した。</li> </ul>		
現状分析 課 題 今後の予定	<p><b>(現状分析・課題・今後の予定)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き保全対策計画に基づく保全対策を推進し、農道機能の維持・発揮を図る。</li> <li>・建設業者が台風第19号に係る早期の災害復旧工事を優先的に実施しているため、円滑な農道保全対策の実施に向け、地元関係者、建設業者、及び関係機関等との協議、調整を図る。</li> </ul>		

## 数値目標

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31(R 円) (目標年)
<b>基幹的な農道の保全対策の実施延長 [km]</b>						
目 標	—	—	7.8	11.0	11.6	12.4
実 績	4.1	4.5	5.0	6.0	7.9	9.5

※ 数値は、累計値。

## 「里」の保全整備

- ▶ 地すべりの前兆現象が現れた地すべり防止区域において、地すべりによる被害を防ぐ対策を行うことにより、区域内の農地及び農業用施設等を保全する。
- ▶ 農村の生活環境を支える農業集落排水施設について、適切に維持するための構想策定を支援するなど、農村地域の生活環境を保全する。

## 【当該年度評価の総括】

## 1 地すべり防止区域における農地・国土保全

- ▶ 円滑な施設監視等に向けた機能保全計画を策定した。また、概成後の地すべり変位状況を確認するため観測調査を実施した。

## 2 農業集落排水施設の長寿命化とライフサイクルコストの低減

- ▶ 最適整備構想に基づき、長寿命化に向けた機能強化を図るための調査設計の策定を支援した。

## ◆ 地すべり防止区域における農地・国土保全

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 地すべりの機能保全計画策定 ----- 1地区を実施 ※ わらび峠	▶ 地すべりの機能保全計画策定 ----- 1地区を実施 ※ わらび峠	A
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・ 適時適切な保全対策及び円滑な施設監視に向けた機能保全計画を策定した。 ・ 地すべりの変位状況確認を行うため、地下水及び亀裂等の観測を実施した。 地すべり監視体制構築のため、地域住民との監視協定を締結した。		
現状分析課題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・ 今後、機能保全計画に基づく保全対策及び施設監視により、地域防災力の向上を図る。 ・ 継続した観測調査の実施により、常時、地すべりの変位状況に注視し、必要に応じて次期対策の検討を行う。		

## 数値目標

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31(R元) (目標年)
<b>地すべり対策工事完了地区数 [地区]</b>						
目 標	—	—	—	—	→	1
実 績	—	—	—	1	1	1
<b>地すべり防止施設の機能保全計画の策定地区数 [地区]</b>						
目 標	—	—	—	1	→	1
実 績	—	—	—	0	→	1

※ 数値は、単年度取組数。

## ◆ 農業水利施設（ため池を除く）における耐震性能の確認

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 耐震化対策の実施設計 ----- 1地区を実施 ※ 美野原2期	▶ 耐震化対策の実施設計 ----- 1地区を実施 ※ 美野原2期	A
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・ 鷲尾沢掛樋について、次年度の円滑な耐震化対策に向けた実施設計を取りまとめた。		
現状分析課題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・ 実施設計に基づく耐震化対策が、早期に着手可能となるよう、地元地権者及び関係機関と協議・調整を図る ・ また、今後も計画的な耐震化対策を進めて行くため、順次対策を行っていく。		

## 数値目標

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31(R元) (目標年)
<b>耐震性能を確認した農業水利施設（ため池除く）数 [施設]</b>						
目 標	—	—	—	9	9	9
実 績	—	—	—	9	9	9

※ 数値は、累計値。

## ◆ 農業集落排水施設の長寿命化とライフサイクルコストの低減

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 農業集落排水施設の長寿命化対策 ----- 2町を支援 ※ 中之条町、長野原町	▶ 農業集落排水施設の長寿命化対策 ----- 2町を支援 ※ 中之条町、長野原町	A
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・最適化整備構想に基づき、機能強化を図るための調査設計の策定を支援した。		
現状分析 課 題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・施設の長寿命化計画に基づき、着実な機能強化対策の実施に向け支援を行う。		

## 数値目標

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31(R元) (目標年)
農業集落排水施設の最適整備構想策定町村数 [町村]						
目 標	—	—	1	2	5	5
実 績	—	—	1	2	5	5

※ 数値は、累計値。

## 「協働」

- ▶ 農地・農業用施設について、適切に維持管理し、これらの資源を次世代へ引き継ぐとともに、地域で取り組む協働活動を支援することにより、農村地域の活力向上を図る。
- ▶ 農業農村及び地域資源を保全することへの県民の理解促進を図る。

## 【当該年度評価の総括】

## 1 地域ぐるみの活動促進による地域コミュニティ機能の発揮

- ▶ 新たに取り組みを検討している地域で事業制度説明会を開催し、取り組み面積拡大に向け支援を行った。

## 2 地域の実情に即した将来像の検討

- ▶ 地域の取組活動継続のため、関係組織に対し中之条町と協力し合併の促進を図った。

## 3 農業農村及び地域資源を保全することへの県民の理解促進

- ▶ 高校生の地域資源の保全に対する理解を深めるため、水路補修実習を行う予定で進めていたが、台風第19号の影響により今年度の開催は見送りとなった。

## ◆ 地域ぐるみの活動促進による地域コミュニティ機能の発揮

## ・地域資源の保管理活動推進

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 地域資源の維持・保全が図られた農地 ----- 2,535ha を支援	▶ 地域資源の維持・保全が図られた農地 ----- 2,500ha を支援	B
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・制度周知、円滑な取り組みの支援のため、フォローアップ等を通じて支援を行った。 ・新たに取り組む地域の拡大を図るため、事業制度の説明会を開催した。		
現状分析 課 題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・活動の継続及び拡大を図るため、町村及び活動組織への支援を行う。		

## ・地域資源の保安全管理活動推進

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ モデル地区における活動組織の広域化 検討 ----- 1地区で検討	▶ モデル地区における活動組織の広域化 検討 ----- 1地区で検討	A
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・組織の高齢化により活動の継続が危ぶまれている組織の町担当者と協力し、関係組織と意見交換を行い、広域化(合併)の促進を図った。		
現状分析 課 題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・引き続き活動の継続に向け、合併や広域組織化を目指す関係活動組織に対し、町村と連携を図り意見交換を行う。		

## 数値目標

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31(R元) (目標年)
<b>多面的機能の維持・発揮が図られた農業集落数 [集落]</b>						
目 標	—	—	47	68	78 (53)	78(58)
実 績	35	53	68	78	78	78
<b>農地・農業用施設の維持・保全が図られた農地面積 [ha]</b>						
目 標	—	—	1,972	1,989	2,522	2,535
実 績	1,321	1,887	1,954	2,522	2,535	2,500
<b>地域構想づくり支援実施モデル地区数 [地区]</b>						
目 標	—	—	—	—	→	1
実 績	—	—	—	—	1	1

※ 数値は、累計値。

※ 実績値が H31(R 元)目標値を超えた場合、次年度の目標値に前年度の実績値を標記し、当初目標値を括弧で標記。

## ◆ 農業農村及び地域資源を保全することへの県民の理解促進

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 吾妻中央高校と連携した地域資源の 保全活動等 ----- 1地区を支援 ※ 美野原	▶ 吾妻中央高校と連携した地域資源の 保全活動等 ----- 1地区を支援 ※ 美野原	—
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・地域資源の保全に係る水路の機能診断や補修実習を実施するため、吾妻中央高校や農村整備建設協会と打合せを行い、実施に向けた調整を図った。 ・しかし、吾妻管内は台風第 19 号に伴う災害が多く発生し、災害復旧対応を優先する必要があるため、農村整備建設協会や高校側と協議の結果、今年度の開催を見送った。		
現状分析 課 題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・今後も引き続き実践活動の継続に向けた支援を行う。		

## 数値目標

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31(R元) (目標年)
<b>地域住民や学校教育との連携による理解促進への取り組み回数 [回]</b>						
目 標	—	—	2	4	6	8
実 績	—	—	2	4	6	6

※ 数値は、昨年度からの累計値。



## (4) 利根沼田地域 ～ ゆたかな緑と水に囲まれた「農業」「地域」を次世代へ～

### 「水」の保全整備

- 老朽化した農業水利施設の保全対策により用水の安定供給を図り、農業生産の安定を図る。
- かんがい用水の安定確保により、雨よけトマトなどの畑作物について、作付面積の拡大や生産性の向上を支援する。
- 農業水利施設の維持保全等を担う土地改良区の更なる体制強化により、地域農業の安定化を支援する。

#### 【当該年度評価の総括】

##### 1 農業水利施設の保全対策の推進

- 沼田平地区では、隧道補強工事に必要な立坑新設工事を実施した。
- 片品村で、トマトなどのかんがい用水を安定して確保するため、貯水槽等整備の支援を行った。

##### 2 土地改良区の施設管理や運営支援

- 4 土地改良区において、機能保全計画の施設監視計画に基づく巡回点検等の支援を行った。

#### ◆ 農業水利施設の保全と用水の安定確保

##### ・効果的・効率的な施設の保全対策

	計 画	実 績	評価
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 機能保全計画に基づく、基幹農業水利施設の保全対策</li> <li>----- 1 地区を実施</li> <li>※ 沼田平</li> <li>----- 1 地区を支援</li> <li>※ 追貝平</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 機能保全計画に基づく、基幹農業水利施設の保全対策</li> <li>----- 1 地区を実施</li> <li>※ 沼田平</li> <li>----- 1 地区を支援</li> <li>※ 追貝平</li> </ul>	<b>B</b>
これまでの取組内容	<p><b>(今年度の取組内容)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・沼田平地区は、隧道の補強工事（内面補強工 40m）を実施した。</li> <li>・追貝平土地改良区の施設について、現地調査を行い、追貝平土地改良区及び沼田市と個別ヒアリング及び水道部局も含めた対策工事実施に向けた検討会議を 1 回行った。</li> <li>また、平川揚水ポンプ機の補修について、小規模農村整備事業により支援した。</li> <li>・4 土地改良区において、機能保全計画の施設監視計画に基づく点検等を現地で支援した。</li> </ul>		
現状分析課題今後の予定	<p><b>(現状分析・課題・今後の予定)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・沼田平地区は、隧道の補強（内面補強工 40m）を年度内に完了する見込みである。引き続き来年度も内面補強工を進める。</li> <li>・引き続き追貝平土地改良区の施設について、令和 3 年度からの対策工事を見据えて関係者との調整を進める。</li> <li>・引き続き 4 土地改良区の施設監視を支援する。</li> </ul>		

## ・かんがい用水の安定確保

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ かんがい用水の安定確保 ----- 1地区を支援 ※ 片品村	▶ かんがい用水の安定確保 ----- 3地区を支援 ※ 片品村	<b>B</b>
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・ダゴジ沢地区の用水安定確保施設(沈殿槽)1箇所の整備を支援した。 ・上郷地区において、用水整備の構想策定を行った。 ・牛の平地区において、令和2年度からの畑地かんがい整備を実施する準備を整えた。		
現状分析 課 題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・片品村では、区画整理済み農地へのかんがい用水確保(防除用水含む)要望があるため、引き続き用水施設の整備を支援する。		

## 数値目標

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31(R元) (目標年)
<b>基幹農業水利施設の保全対策に着手した地区数 [地区]</b>						
目 標	—	—	3	4	5	5
実 績	3	3	4	4	4	4
<b>保全対策により農業用水の安定供給が維持された農地面積 [ha]</b>						
目 標	—	—	868	922	1,134	1,374
実 績	643	704	922	926	980	1,114

※ 数値は、累計値。

## ◆ 土地改良区の運営体制の強化の推進

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 土地改良区体制強化基本計画の推進 4土地改良区の計画進行管理支援 ※ 沼田平、追貝平、赤谷川沿岸、赤城北ろく	▶ 土地改良区体制強化基本計画の推進 4土地改良区の計画進行管理支援 ※ 沼田平、追貝平、赤谷川沿岸、赤城北ろく	<b>A</b>
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・赤谷川沿岸土地改良区の個別課題に係る指導を行い、土地改良法の一部改正に連動した定款変更手続きについて、変更認可申請事務を支援した。		
現状分析 課 題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・管内に設置する「利根沼田土地改良区ネットワーク」において、各土地改良区の課題等へ対応を検討し個別指導を行う。 ・今年度、複式簿記を試行した土地改良区について、課題を確認し、本格導入まで引き続き支援を行う。		

## 数値目標

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31(R元) (目標年)
<b>土地改良区体制強化基本計画を策定した土地改良区数 [土地改良区]</b>						
目 標	—	—	1	1	1	4
実 績	—	—	3	1	—	4

※ 数値は、単年度取組数。最終年度のみ累計値。

## 「土」の保全整備

- ▶ 路面の損傷が著しい畑地帯の農道の保全対策を行い、通作と農産物輸送の効率化・安定化を目指す。
- ▶ 幅員が狭小な農道の拡幅整備を行い、農産物輸送や通作等の効率化を目指す。

## 【当該年度評価の総括】

## 1 流通経路や通作道の保全

- ▶ 保全対策計画に基づき道路整備工事を実施した。

## 2 野生鳥獣被害からの地域農業の保全

- ▶ 中山間地における農地の野生鳥獣被害を防止するため、2市町が行う鳥獣被害対策を支援した。

## ◆ 流通経路や通作道の保全

## ・農道保全による長寿命化

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 保全対策計画に基づく、保全対策 ----- 1地区を実施 ※ 赤城西	▶ 保全対策計画に基づく、保全対策 ----- 1地区を実施 ※ 赤城西	<b>C</b>
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・点検診断に基づく、道路整備工事(L=0.4km)の工事を実施した。 ・特定農業用管水路特別対策事業赤城原地区と重複する路線について、工程調整を行う必要が生じたため、施工延長が当初計画より減少した。		
現状分析 課 題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・引き続き点検診断に基づく、道路整備工事(L=1.7km)を実施する。		

## 数値目標

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31(R元) (目標年)
基幹的な農道の保全対策の実施延長 [km]						
目 標	—	—	3.0	6.1	6.1	6.1
実 績	2.8	2.8	2.8	2.8	3.2	4.0

※ 数値は、累計値。

## ◆ 野生鳥獣被害からの地域農業の保全

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 侵入防止柵等の設置 ----- 2市町を支援 ※ 沼田市、みなかみ町	▶ 侵入防止柵等の設置 ----- 2市町を支援 ※ 沼田市、片品村、昭和村、みなかみ町	<b>A</b>
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・沼田市池田地区の工事を支援し、完了した。 ・みなかみ町の小規模農村整備事業の獣害防止電気柵の事業を支援した。		
現状分析 課 題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・引き続き鳥獣被害対策として、侵入防止柵設置の支援を行う。		

## 数値目標

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31(R元) (目標年)
野生鳥獣被害防止対策を支援した市町村数 [市町村]						
目標	—	—	4	3	3	4
実績	(4)	—	4	3	4	4

※ 基準年の( )内は、過去4年間(H25~27)の実績であり、4年間で同数の実施・支援を目指した。  
数値は、単年度取組数。なお、最終年度は市町村(年度の重複を除く)の累計値。

## 「里」の保全整備

- ▶ 老朽化した石綿セメント管から硬質塩化ビニル管等への転換により、石綿の飛散による被害を防止するとともに、地域の主要産業である農業が将来にわたって安全・安心・安定的に継続されることを目指す。
- ▶ 耐震性を有していないため池について適切な対策を行い、安全・安心な地域づくりと水利施設の機能確保による農業の安定化を目指す。
- ▶ 農業集落排水施設の機能維持により、住みやすい農村環境の保全を図る。

## 【当該年度評価の総括】

## 1 石綿セメント管による被害防止と農業の安定

- ▶ 漏水事故の際、被害が大きい幹線管水路の更新を先行実施したため、支線管水路の更新が進まず、石綿セメント管の撤去は進捗しなかった。

## 2 安全な農村づくり

- ▶ 防災ため池について、耐震化(堤体補強)に関連する取水施設の整備を実施した。
- ▶ 本年度から重点ため池が28箇所となったため、関係市町村を支援し、共同点検を行うとともに、来年度耐震、豪雨及びハザードマップ作成を行う事業化について、支援した。

## 3 生活水準の維持・保全

- ▶ 機能保全対策に基づき、事業化した機能保全対策を行う1村の実施設計を支援した。

## 4 中山間地域の振興

- ▶ みなかみ町及び川場村において、棚田保全活動(3地区)等を支援した。

## ◆ 石綿セメント管による被害防止と農業の安定

	計 画	実 績	評価
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 農業用管水路の改修 ----- 1地区を実施</li> <li>※ 赤城原</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>※ 農業用管水路の改修 ----- 1地区を実施</li> <li>▶ 赤城原</li> </ul>	D
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・石綿セメント管から硬質塩化ビニル管等への布設替え工事を実施するとともに、石綿セメント管の撤去を進める。		
現状分析課題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・布設した塩ビ管等を設置後に石綿セメント管を撤去する予定のため、撤去延長は目標を下回っているが、布設した塩ビ管等の整備は目標23.4kmに対して17.8kmの実績である。 ・旧管(石綿セメント管)は農地内に埋設されているため営農期間は撤去ができず、施工時期が限定されるが、撤去可能区間は順次撤去を進める。		

## 数値目標

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31(R 元) (目標年)
石綿セメント管の撤去延長 [km]						
目 標	—	—	6.2	12.6	19.5	24.4
実 績	2.4	2.9	2.9	4.0	4.4	5.9

※ 数値は、累計値。

## ◆ 安全な農村づくり

## ・ため池の保全

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 防災ため池の震災対策 ----- 1地区を実施 ※ 池田 ▶ 改修が必要なため池の保全整備 ----- 1地区を実施 ※ 三峰第1	▶ 防災ため池の震災対策 ----- 1地区を実施 ※ 池田 ▶ 改修が必要なため池の保全整備 ----- 2地区を実施 ※ 三峰第1、宇楚井	A
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・池田ため池では、震災対策工事（堤体補強工、洪水吐更新）を実施する。 ・三峰第1ため池では、保全対策工事（遮水シート工）に着手した。 ・宇楚井ため池では、実施設計を行った。		
現状分析 課 題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・引き続き、池田ため池及び三峰第1ため池は堤体補強工事を行う。 ・宇楚井ため池では耐震工事を行う。		

## ・ため池の共同点検

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ ため池管理者との共同点検 ----- 8ヶ所を実施 ※ 宇楚井、生枝第2、堀廻第1・第2、鎌田、 権現上・下、池田	▶ 市町村との共同点検 ----- 28ヶ所を実施 ※ 防災重点ため池 28箇所	A
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・管内全ての防災重点ため池について、関係市町村及びため池管理者と共同点検を実施した。		
現状分析 課 題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・引き続き関係市町村及びため池管理者が行う共同点検を支援する。		

## ・農業水利施設（ため池を除く）における耐震性能の確認

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 施設監視（耐震）の支援 ----- 2地区（6施設）を支援 ※ 沼田平（2施設）、赤谷川沿岸（4施設）	※ 施設監視の支援 ----- 4地区を支援 ▶ 沼田平、赤谷川沿岸、追貝平、赤城北ろく	A
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・施設監視の方法や対応方針について、関係する土地改良区と個別に打合せを行った。		
現状分析 課 題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・引き続き関係する農業水利施設（ため池を除く）管理者が行う施設監視を支援する。		

## 数値目標

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31(R 元) (目標年)
耐震性能を確認した農業水利施設(ため池除く)数 [施設]						
目 標	—	—	—	5	6	6
実 績	—	—	—	6	6	6

※ 数値は、単年度取組数。

## ◆ 生活水準の維持・保全

	計 画	実 績	評価
取組内容	<p>➤ 農業集落排水事業の最適整備構想に基づく保全対策の支援 ----- 1村を支援 ※ 昭和村</p>	<p>➤ 農業集落排水事業の最適整備構想に基づく保全対策の支援 ----- 1村を支援 ※ 昭和村</p>	A
これまでの取組内容	<p><b>(今年度の取組内容)</b> ・昭和村担当者と個別打合せを行い、本年度の設計業務が円滑に進められるように支援した。</p>		
現状分析 課 題 今後の予定	<p><b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・実施設計が年度内に完了し、来年度の対策工事が円滑に進められるよう、昭和村を支援する。</p>		

## 数値目標

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31(R 元) (目標年)
農業集落排水施設の最適整備構想策定市町村数 [市町村]						
目 標	—	—	2	3	4	4
実 績	1	1	2	3	4	4

※ 数値は、累計値。

## 「協働」

- 緑とうるおい豊かな地域資源の保全を目的とした協働を支援し、多面的機能の維持・発揮を図るとともに、次世代に地域資源を引き継ぐことを目指す。
- 地域の共同活動の推進により、地域コミュニティ機能の発揮を促進し、農村振興を図る。

## 【当該年度評価の総括】

## 1 協働活動への支援

- 農地や農業用施設などの保全管理や地域活性化へ取り組む 63 組織 (3,597ha)、並びに、農業用施設の長寿命化に取り組む 25 組織 (2,220ha) の活動を支援し、農業生産基盤や多面的機能の維持・保全が図られた。

## ◆ 農地維持・資源向上・長寿命化

	計 画	実 績	評価
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 地域資源の維持・保全が図られた農地面積 ----- 3,473 ha を支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 地域資源の維持・保全が図られた農地面積 ----- 3,597 ha を支援</li> </ul>	<b>A</b>
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・新たに協働活動を検討する地域に対し、昭和村と連携し、活動団体向けの説明会を行った。 ・すべての活動団体に対してフォローアップを行った。		
現状分析 課 題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・引き続き新たに協働活動を検討する地域に対し、関係市町村と連携して支援を行う。		

## 数値目標

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31(R 元) (目標年)
多面的機能の維持・発揮が図られた農業集落数 [集落]						
目 標	—	—	64	66(65)	67(66)	75(68)
実 績	63	64	66	67	75	79
農地・農業用施設の維持・保全が図られた農地面積 [ha]						
目 標	—	—	3,070	3,301	3,270	3,473
実 績	3,046	3,052	3,301	3,301	3,465	3,597

※ 数値は、累計値。

※ 実績値が H31(R 元)目標値を超えた場合、次年度の目標値に前年度の実績値を標記し、当初目標値を括弧で標記。

## ◆ 地域の実情に即した将来像の検討

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 構想づくりの検討 ----- モデル地区 1 地区の支援	▶ 構想づくりの検討 ----- モデル地区 1 地区の支援	A
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・片品村と連携して上郷地域の構想づくりの支援を行った。		
現状分析 課 題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・引き続き活動団体の構想づくりを支援する。		

## 数値目標

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31(R 元) (目標年)
地域構想づくり支援実施モデル地区数 [地区]						
目 標	—	—	—	→	→	1
実 績	—	—	—	—	—	1



## (5) 東部地域 ～わたらせの水と里に未来をのせて～

## 「水」の保全整備

- 老朽化した農業水利施設の補修・補強・更新を適切に行うことにより、東部地域の農業を支えてきた農業水利施設を保全し、安定的な食料生産を支える。
- 農業水利施設の管理主体である土地改良区の体制強化の取り組み及び維持管理費軽減対策を支援し、地域農業の安定を図る。

## 【当該年度評価の総括】

## 1 農業水利施設の保全

- 管内の基幹水利施設を管理する6土地改良区に対し、機能保全計画書に基づく施設監視を実施し、指導を行った。
- 大間々用水地区及び深沢川頭首工地区において、協議・調整及び改修工事を進め、深沢川頭首工地区においては、事業完了となった。

## 2 施設管理者の体制強化

- 土地改良区体制強化基本計画を策定した13土地改良区において、強化基本計画の着実な実施に向けた支援を行った。
- 業務継続計画（BCP）を策定した7土地改良区において、BCPの実行のための支援を行った。

## 3 農業用水の活用（小水力）

- 小水力発電所の2施設の稼働状況を把握するとともに、適切な発電事業会計が行われるよう助言・指導を行った。

## ◆ 管理の適正化

	計 画	実 績	評価
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 県管理施設の適切な維持管理 ----- 2地区を実施</li> <li>※ 太田頭首工、邑楽頭首工</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 県管理施設の適切な維持管理 ----- 2地区を実施</li> <li>※ 太田頭首工、邑楽頭首工</li> </ul>	A
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・関係土地改良区と連携して、適時適切な維持管理や施設の運用を行った。		
現状分析 課 題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・関係土地改良区と連携して、適時適切な維持管理や施設の運用を行う。		

## 数値目標

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31(R元) (目標年)
県管理施設の適正な維持・保全 [地区]						
目 標	—	—	2	2	2	2
実 績	2	2	2	2	2	2

※ 数値は、単年度取組数。

## ◆ 農業水利施設の保全

## ・施設監視の継続実施

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 機能保全計画に基づく、施設監視 ----- 6 土地改良区を指導・支援 ※ 待矢場両堰、岡登堰、藪塚台地、大間々用水、 邑楽、利根加用水	▶ 機能保全計画に基づく、施設監視 ----- 6 土地改良区を指導・支援 ※ 待矢場両堰、岡登堰、藪塚台地、大間々用水、 邑楽、利根加用水	A
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・農業水利施設を管理する 6 土地改良区と連携し、基幹水利ストックマネジメント事業により策定した機能保全計画(施設監視計画)に基づく定点監視を実施するとともに、監視に対する指導を行った。		
現状分析課題今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・引き続き、機能保全計画に基づく定点監視の指導を実施するとともに、保全対策が必要と判断される施設については、保全対策に取り組むよう支援・指導を行う。		

## ・農業水利施設の保全対策の推進

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 機能保全計画に基づく、基幹農業水利施設の保全対策 ----- 2 地区を実施 ※ 大間々用水、深沢川頭首工	▶ 機能保全計画に基づく、基幹農業水利施設の保全対策 ----- 2 地区を実施 ※ 大間々用水、深沢川頭首工	D
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・大間々用水地区については、残事業内容の精査と関係との協議調整により、事業計画の変更を行った。 ・深沢川頭首工地区は、2 期工事を実施し、事業が完了した。		
現状分析課題今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・藤川用水地区は、機能保全計画の更新に伴い対策年度が延期となり、令和 2 年度着手予定である。 ・大間々用水地区は、関係との協議調整により、来年度早期の工事発注を行う。		

## 数値目標

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31(R 元) (目標年)
<b>農業水利施設の機能保全計画に基づく施設監視の継続実施 [地区]</b>						
目 標	—	—	6	6	6	6
実 績	6	6	6	6	6	6
<b>基幹農業水利施設の保全対策に着手した地区数 [地区]</b>						
目 標	—	—	2	3	4	5
実 績	—	1	2	3	3	3
<b>保全対策により農業用用水の安定供給が図られた農地面積 [ha]</b>						
目 標	—	—	358	739	1,403	1,970
実 績	—	—	138	588	764	871

※ 数値は、累計値。

## ◆ 施設管理者の体制強化

## ・体制強化基本計画の策定

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 土地改良区体制強化基本計画の推進 13 土地改良区の計画進行管理支援 ※ 待矢場両堰、岡登堰、藪塚台地、阿左美沼、大間々用水、早川、上野、勢多郡東村、邑楽、近藤沼、赤郷台地、板倉台地、利根加用水	▶ 土地改良区体制強化基本計画の推進 13 土地改良区の計画進行管理支援 ※ 待矢場両堰、岡登堰、藪塚台地、阿左美沼、大間々用水、早川、上野、勢多郡東村、邑楽、近藤沼、赤郷台地、板倉台地、利根加用水	A
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・土地改良区体制強化基本計画の着実な実施に向け、課題や困難な点の聴取や複式簿記に関する助言を行うなどの支援を行った。		
現状分析 課 題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・引き続き基本計画の着実な実施に向け、個別指導を行うとともに東部土地改良区ネットワークの活用を通して支援を行う。		

## 業務継続計画の策定

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 業務継続計画 (BCP) 実行の支援 ----- 7 地区を支援 ※ 待矢場両堰、岡登堰、藪塚台地、大間々用水、勢多郡東村、邑楽、利根加用水	▶ 業務継続計画 (BCP) 実行の支援 ----- 7 地区を支援 ※ 待矢場両堰、岡登堰、藪塚台地、大間々用水、勢多郡東村、邑楽、利根加用水	A
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・業務継続計画策定済みとなった 7 土地改良区に対し、業務継続計画 (BCP) の実行のための支援を行った。		
現状分析 課 題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・土地改良区の巡回を通じて、業務継続計画 (BCP) の実行のための課題や困難な点を聴取し、個別指導を行うとともに東部土地改良区ネットワークの活用を通して支援を継続する。		

## 数値目標

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31(R 元) (目標年)
<b>土地改良区体制強化基本計画を策定した土地改良区数 [土地改良区]</b>						
目 標	—	—	13	13	13	13
実 績	—	—	13	13	13	13
<b>業務継続計画を策定した土地改良区数 [土地改良区]</b>						
目 標	—	—	—	1	5	7 (4)
実 績	—	—	1	5	7	7 (4)

※ 数値は、累計値。

※ 実績値が H31(R 元)目標値を超えた場合、次年度の目標値に前年度の実績値を標記し、当初目標値を括弧で標記。

## ◆ 農業用水の活用(小水力)

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 小水力発電施設の運営支援 ----- 2地区を支援 ※ 矢場、大間々用水	▶ 小水力発電施設の運営支援 ----- 2地区を支援 ※ 矢場、大間々用水	A
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・それぞれの発電事業者から各月の発電量について情報提供してもらい、発電の状況把握を行った。 ・発電事業会計の見直しに係る情報提供を行うとともに、適切な会計となるよう助言・指導を行った。		
現状分析 課 題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・引き続き、適切な発電会計の処理が行われるよう助言・指導を行う。		

## 数値目標

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31(R元) (目標年)
農業用水を活用した小水力発電施設の稼働数 [施設]						
目 標	—	—	—	1	1	2
実 績	—	—	—	1	1	2

※ 数値は、単年度取組数。最終年度のみ累計値。

## 「土」の保全整備

- ▶ 農業競争力強化を図るべく地域の実情に即した生産性の高いほ場整備を行い、営農効率向上に有効な農地の面的集積・集約化を推進する。
- ▶ 市町の被害防止計画に基づき行う野生鳥獣被害防止対策を支援し、耕作放棄地の発生を未然に防ぐ。

## 【当該年度評価の総括】

## 1 農地の有効利用と意欲ある担い手の育成のための基盤整備

- ▶ 五箇谷地区では、未同意者の対応を地元と検討しつつ、区画整理(15.7ha)を実施した。

## 2 水田再整備

- ▶ 簡易ほ場整備1地区の支援を行い、18.0haの区画拡大を図った。

## 3 野生鳥獣被害防止

- ▶ 鳥獣被害防止柵の設置を支援し、野生鳥獣による農作物への被害軽減を図った。

## ◆ 農地の有効利用と意欲ある担い手の育成のための基盤整備

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 農業生産性の向上と担い手への農地集積を促進するための基盤整備 ----- 2地区の基盤整備を実施 ※ 五箇谷、下江黒	▶ 農業生産性の向上と担い手への農地集積を促進するための基盤整備 ----- 2地区の基盤整備を実施 ※ 五箇谷、下江黒	D
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・五箇谷地区は事業未同意者の同意取得に向けた協議・調整を行うとともに、来年度以降の工事予定箇所の設計等を進めた。 ・下江黒地区は、土地改良区設立や換地原案のとりまとめに係る支援を行うとともに、来年度以降の工事箇所の設計等を取りまとめた。 ・五箇谷地区における事業未同意対応などにより、目標としていた整備面積に達しなかった。		
現状分析 課 題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・五箇谷地区は、上期の工事発注に向けた準備を行うとともに、事業未同意者に対し、地元と連携し、同意取得を目指す。 ・下江黒地区は、年度内の換地原案作成・同意取得および来年度からの工事着手に向け実施設計の年度内完成を目指す。 ・五箇谷地区における事業未同意対応などにより、目標としていた整備面積に達しなかった。		

## 数値目標

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31(R元) (目標年)
区画整理による整備面積(水田・畑)[ha]【4年間】						
目 標	—	—	12.3	35.3	58.3	95.0
実 績	—	—	11.2	20.4	26.0	41.7

※ 数値は、累計値。

## ◆ 水田再整備

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 畦畔除去による農地拡大 ----- 1地区の10a区画拡大を支援 ※ 城沼	▶ 畦畔除去による農地拡大 ----- 1地区の10a区画拡大を支援 ※ 城沼	B
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・区画拡大に向けた畦畔除去の実施について、事業主体に支援を行った。		
現状分析 課 題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・効率的な生産基盤の確保を図るため、農地拡大にむけた取り組みを支援する。		

## 数値目標

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31(R元) (目標年)
10a区画水田の農地拡大をした面積[ha]【4年間】						
目 標	—	—	18.7	40.0	60.0	80.0
実 績	—	—	26.4	38.9	49.2	67.2

※ 数値は、累計値。

## ◆ 野生鳥獣被害防止

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 侵入防止柵等の設置 ----- 1市を支援 ※ 桐生市	▶ 侵入防止柵等の設置 ----- 1市を支援 ※ 桐生市	A
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・電気柵 L=2,032m が小規模農村整備事業によって設置された。		
現状分析 課 題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・設置要望があった場合には、事業の緊急採択等により迅速な対応を行う。		

## 数値目標

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31(R元) (目標年)
野生鳥獣被害防止対策を支援した市町村 [市町村]						
目 標	—	—	1	1	1	2
実 績	(2)	—	2	1	1	2

※ 基準年の ( ) 内は、過去4年間 (H25~27) の実績であり、4年間で同数の実施・支援を目指した。  
 数値は、単年度取組数。なお、最終年度は市町村 (年度の重複を除く) の累計値。

## 「里」の保全整備

- ▶ 近年の集中豪雨、台風等に起因した農地の湛水被害が防止できるよう、地域排水対策を実施し、安定的な食料生産が維持できるよう取り組みます。
- ▶ 自然災害及び老朽化などにより周辺地域に被害を及ぼす恐れのある「ため池」の点検診断を行い、安全で災害に強い農村づくりを目指します。

## 【当該年度評価の総括】

## 1 安全な農村づくり

- ▶ 大久保地区は、湛水被害対策のための排水路工事を進めた。また、洪水調整池の造成に必要な用地測量を行い、次年度早期に用地買収が出来るよう準備した。

## 2 災害に強い農村づくり

- ▶ 太田市・みどり市における農業用ため池の耐震性能の確認とハザードマップ作成を支援した。
- ▶ 農業用ため池における防災減災を図るため、早川貯水池地区の改修工事を実施した。

## ◆ 安全な農村づくり

## ・排水路の整備

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 湛水被害対策のための農業用排水路の整備 ----- 排水施設整備工事を実施 ※ 大久保	▶ 湛水被害対策のための農業用排水路の整備 ----- 排水施設整備工事を実施 ※ 大久保	A
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・大久保地区は、地元及び関係機関との調整を行い、本年度計画していた排水路の工事を実施した。		
現状分析 課 題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・工事を実施した区域について、湛水被害防止の効果が図れた。 ・次年度以降の工事実施に必要な用地買収交渉を行い、用地の取得を進める。		

## ・排水管理の維持・充実

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 水管理施設の更新整備 ----- 1地区の実施 ※ 渡良瀬川中央	▶ 水管理施設の更新整備 ----- 1地区の実施 ※ 渡良瀬川中央	A
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・効率的な排水管理を行うため、水管理システムの子局の改修や追加整備を実施した。		
現状分析 課 題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・水管理システムにより効率的な排水管理を行うため、子局の改修や追加工事を実施する。		

## 数値目標

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31(R元) (目標年)
湛水被害防止面積 [ha]						
目 標	—	—	—	4.8	11.6	17.8
実 績	—	—	—	5.5	12.1	19.0

※ 数値は、累計値。

## ◆ 災害に強い農村づくり

## ・ため池における耐震性能の確認

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 耐震性点検調査 ----- 2地区(18施設)を支援 ※ 太田4(16施設)、みどり1(2施設)	▶ 耐震性点検調査 ----- 2地区(7施設)を支援 ※ 太田4(6施設)、みどり1(1施設)	A
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・防災重点ため池再選定結果を踏まえ今年度の調査施設数の見直しを行い、調査が必要な8施設の内、7施設の耐震性能を確認した。 ・国営調査で対応している1施設については、地質調査を完了した。		
現状分析 課 題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・耐震調査が必要な1施設については、令和2年度の早期に耐震性能解析を完了するよう、国と調整する。		

## ・ハザードマップ作成の支援

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ ため池のハザードマップ作成 2地区(15ヶ所・18施設)を支援 ※ 太田1(13ヶ所・16施設)、 みどり1(2施設)	▶ ため池のハザードマップ作成 2地区(6ヶ所・11施設)を支援 ※ 太田1(4ヶ所・8施設)、 みどり1(2ヶ所・3施設)	A
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・防災重点ため池再選定結果を踏まえ作成箇所の見直しを行い、作成が必要な11施設全てについて、ハザードマップの作成が完了した。		
現状分析 課 題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・関係市と連携して作成したハザードマップを地域住民に周知するとともに、地震時の地域の安全を確保するための管理体制の整備を推進する。		

## ・防災重点ため池の改修

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ ため池の健全度確保のための整備 ----- 1地区を実施 ※ 早川貯水池	▶ ため池の健全度確保のための整備 ----- 1地区を実施 ※ 早川貯水池	A
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・堤体の長期的な健全度確保のため、堤体表層部の補修補強等のため池改修を行い、下流域への防災減災機能の向上を図った。		
現状分析 課 題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・早川貯水池は、年度内に緊急整備工事が完了したことにより、ため池の健全度確保が出来た。		

## 数値目標

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31(R元) (目標年)
<b>耐震性能を確認したため池数 [地区]</b>						
目 標	—	—	11	14	17	20
実 績	2	3	11	14	19	28
<b>ハザードマップの作成を支援したため池数 [ため池]</b>						
目 標	—	—	10	13	16	19
実 績	—	—	10	14	19	29
<b>耐震性能を確認した農業水利施設(ため池除く)数 [施設]</b>						
目 標	—	—	—	22	48	48
実 績	—	—	—	34	48	48

※ 数値は、累計値。

## 「協働」

- ▶ 農地・農業用施設などの資源や農村環境を地域で守り、保全していくための体制づくりを支援します。
- ▶ 農地周り・水路・農道の草刈りや泥浚い、景観形成のための植栽、農業用施設の長寿命化に向けた補修・更新などの協働活動を支援し、農村振興を図ります。

## 【当該年度評価の総括】

## 1 農村地域の資源保全と地域コミュニティの発揮協働活動への支援

- ▶ 多面的機能支払に取り組む、活動組織 52 地区（うち広域活動組織 4 地区）の円滑な事業推進を支援するとともに、認定期間が終了する組織の活動継続を支援した。



## ◆ 農村地域の資源保全と地域コミュニティの発揮

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 地域資源の維持・保全が図られた農地面積 ----- 5,277 ha を支援	▶ 地域資源の維持・保全が図られた農地面積 ----- 4,619 ha を支援	<b>B</b>
これまでの取組内容	<b>(今年度の取組内容)</b> ・活動組織に交付金が早期に交付できるよう速やかな事務処理を行った。 ・ほ場整備推進地区において活動取組を推進した。 ・市町村及び土地改良区と連携し認定期間が終了する地区を重点的にフォローアップした。		
現状分析 課 題 今後の予定	<b>(現状分析・課題・今後の予定)</b> ・引き続き、各活動組織の活動を支援するとともに、新規要望地区の活動開始、及び認定期間終了地区の再認定による活動継続に向けて関係市と連携して支援を行う。		

## 数値目標

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31(R 元) (目標年)
<b>多面的機能の維持・保全が図られた農業集落数 [集落]</b>						
目 標	—	—	107	135(124)	180 (141)	180(161)
実 績	79	124	135	180	180	180
<b>農地・農業用施設の維持・保全が図られた農地面積 [ha]</b>						
目 標	—	—	3,483	3,753	4,610	5,277
実 績	2,583	2,829	3,545	4,610	4,612	4,619
<b>地域構想づくり支援実施モデル地区数 [地区]</b>						
目 標	—	—	1	1	→	1
実 績	1	1	1	1	3	3

※ 数値は、累計値。

※ 実績値が H31(R 元)目標値を超えた場合、次年度の目標値に前年度の実績値を標記し、当初目標値を括弧で標記。

## 6 令和元年度の主な予算

施策区分	取組内容	実施事業名	H30補正 (千円)	R元予算 (千円)
<b>水土里の保全整備</b>			<b>1,021,050</b>	<b>6,074,923</b>
<b>「水」の保全整備</b>			<b>270,000</b>	<b>1,184,721</b>
農業水利施設の保全管理	農業競争力強化基盤整備(水利施設等保全高度化－水利施設整備)	農業競争力強化基盤整備(水利施設等保全高度化－集積促進)	80,000	94,000
		農業競争力強化基盤整備(水利施設等保全高度化－資産評価)	150,000	50,000
		農山漁村地域整備(水利施設整備)	40,000	71,400
		農業水路等長寿命化・防災減災	0	455,880
		相馬ヶ原補償工事	0	131,124
		土地改良施設維持管理適性化	0	61,200
		基幹水利施設管理	0	102,505
		基幹水利施設管理[県単]	0	4,000
		国営造成施設管理体制整備促進	0	143,662
		農業用水の高度利用	農業競争力強化基盤整備(水利施設等保全高度化－畑地帯担い手育成型)	100,000
再生可能エネルギーの導入推進	農山漁村地域整備(地域用水環境整備)	0	60,000	
農業用水の確保	農業用水環境調査	0	450	
<b>「土」の保全整備</b>			<b>501,050</b>	<b>2,486,649</b>
担い手の育成・確保のための計画策定	県営農業農村整備調査計画[県単]	0	37,792	
農業生産性を高める基盤整備	農業競争力強化基盤整備(水利施設等保全高度化－畑地帯担い手育成型)【再掲】	農業競争力強化基盤整備(水利施設等保全高度化－畑地帯担い手支援型)	100,000	272,822
		農業競争力強化基盤整備(農地整備－経営体育成型)	35,000	39,000
		農業競争力強化基盤整備(農地整備－経営体育成型)	366,050	148,924
		農業競争力強化基盤整備(農地中間管理機構関連)	0	36,000
		農業競争力強化基盤整備(農地整備－実施計画、高度化支援等)	0	53,215
		農山漁村地域整備(農地整備(畑地帯担い手育成型))	0	350,000
		農山漁村地域整備(農業経営高度化支援)	0	90,400
地域ニーズに即した基盤整備	農業基盤整備促進	農地耕作条件改善	0	32,000
		農地耕作条件改善	0	359,076
		小規模農村整備[県単]	0	707,420
農道の保全	農山漁村地域整備(農地整備(通作条件整備))	0	360,000	
野生鳥獣被害の防止	小規模農村整備[県単]【再掲】	0	707,420	
<b>「里」の保全整備</b>			<b>250,000</b>	<b>1,573,139</b>
災害に強い農村づくり	農村地域防災減災調査計画	0	105,031	
ため池の保全	農村地域防災減災(ため池等整備)	70,000	345,000	
	ため池緊急防災減災対策[県単]	0	150,000	
農村地域の防災減災対策	農村地域防災減災(用排水施設整備)	農村地域防災減災(農業用河川工作物等応急対策)	40,000	13,900
		農村地域防災減災(特定農業用管水路等特別対策)	0	111,800
		農山漁村地域整備(集落基盤再編整備)	140,000	296,980
		農山漁村地域整備(農地防災)	0	170,000
		農業水路等長寿命化・防災減災	0	145,364
		地すべり防止区域保全対策[県単]	0	98,000
農村集落環境の保全	農業集落排水	0	10,000	
中山間地域の振興	ふるさと保全対策(ふるさと水と土基金、棚田基金)	山村振興対策	0	105,397
		中山間元気創生基盤整備構想策定[県単]	0	6,942
		中山間地域活性化	0	101
グリーン・ツーリズムの推進	グリーン・ツーリズム推進	0	1,100	
	中山間地域活性化	0	2,921	
		0	10,603	
<b>協働</b>			<b>0</b>	<b>830,414</b>
農地維持・資源向上	多面的機能支払	中山間地域等直接支払	0	695,876
			0	134,538
地域構想づくり支援			—	—
農業農村への理解促進	ふるさと保全対策(ふるさと水と土基金、棚田基金)【再掲】		0	6,942

# 7 群馬県農業農村振興計画の概要と本プランの位置付け

## 策定の目的とねらい

平成 23～27 年度の 5 カ年間、群馬県農政の基本となる「ぐんま農業はばたけプラン」に基づき、各種施策に取り組んできましたが、本県農業・農村の振興を計画的に推進するため、平成 28 年度を初年度とする新たな群馬県農業農村振興計画を策定しました。

群馬県農業・農村の現状やこれを取り巻く国内外の状況を踏まえ、本県農業・農村の目指す姿を明らかにし、県民とともにその実現に向けた取組を推進することをねらいとしました。

本プランは、県農政の進むべき基本指針となるもので、「第 15 次群馬県総合計画（新総合計画）」部門計画として位置づけるものです。

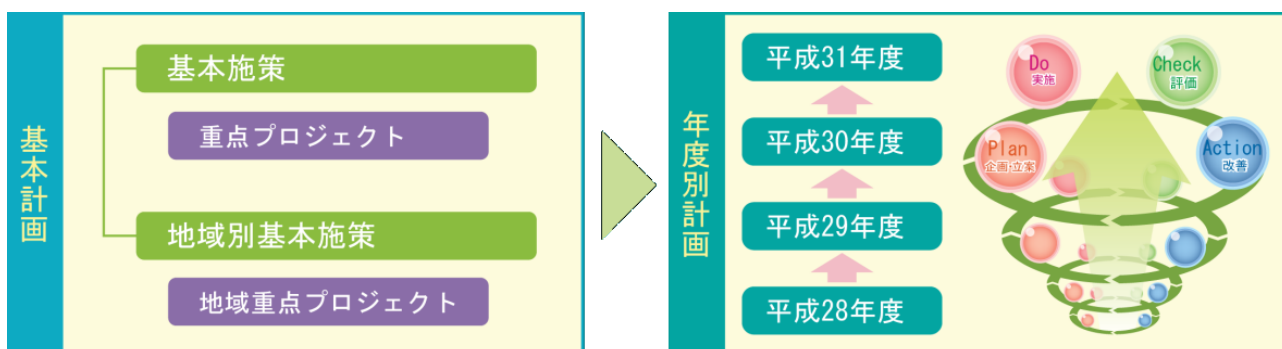
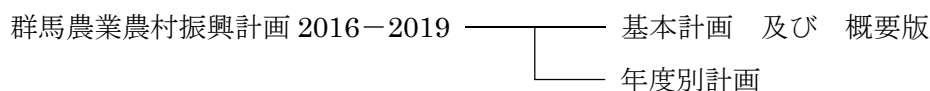
また国の「食料・農業・農村基本計画」も踏まえて策定しました。

平成 28 年度を初年度とし、平成 31 年度（令和元年度）を目標年度とする 4 カ年計画となります。

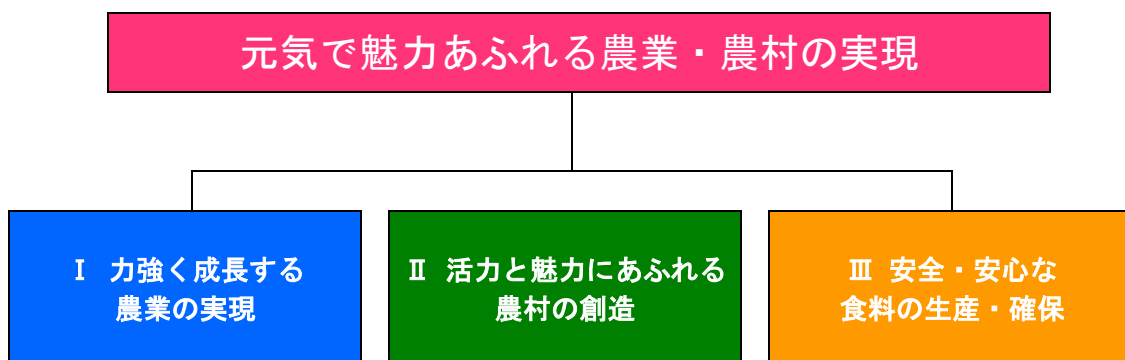
## 群馬県農業農村振興計画の構成

この計画は、4 年間の施策実施における方向性や推進内容を示す【基本計画】と、基本計画に基づき実施する毎年度の取組内容を示す【年度別計画】の 2 部構成とします。

【年度別計画】は、具体的な取組内容を明示し、各年度の成果及び進捗を検証し、これにより【基本計画】の着実な推進を図ります。

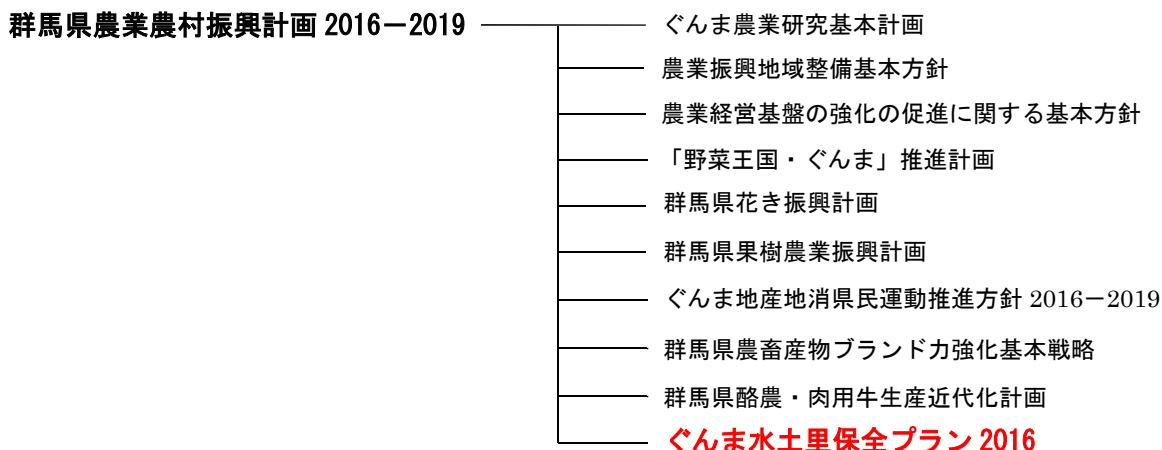


## 基本目標及び政策体系



## 本プランの位置付け

「ぐんま水土里保全プラン 2016」は、「群馬県農業農村振興計画 2016－2019」の基本目標である『元気で魅力あふれる農業・農村の実現』に向けた部門計画として位置付けられています。



## 群馬県農業農村振興計画 基本政策

### I 力強く成長する農業の実現

- ◆力強い担い手の育成
  - ・競争力のある力強い経営体の育成
  - ・新たな担い手の確保・育成
  - ・地域で輝く女性農業者の育成
  - ・農地利用の最適化の促進
- ◆攻めの農業生産の展開
  - ・園芸作物等の産地競争力の強化
  - ・競争力に優れた収益性の高い畜産経営の確立
  - ・飼料用米等の生産拡大による水田フル活用
  - ・現場のニーズに即した研究開発と普及
- ◆生産基盤の保全・整備
  - ・計画的な保全管理の推進
  - ・農業生産基盤の整備による生産性向上
- ◆農産物のブランド力強化
  - ・ぐんまブランドの確立と戦略的な流通・販売の強化
  - ・県産農産物の輸出促進による販路拡大

### II 活力と魅力にあふれる農村の創造

- ◆地域資源の積極的な活用
  - ・他産業との連携・協働による6次産業化の推進
  - ・地域特性を踏まえた多彩な農産物の生産
- ◆農村回帰による地域活力の創出
  - ・都市と農山村の共生・対流の推進
  - ・多様な形態による農村への就業促進
- ◆快適で豊かな農村環境の維持・継承
  - ・地域コミュニティによる農村資源の保全・継承
  - ・野生鳥獣被害防止対策の強化
  - ・環境に配慮した農業の推進

### III 安全・安心な食の安定供給

- ◆安全・安心な食の安定供給
  - ・農産物の安全確保に基づく安心の提供
  - ・消費者理解の促進による農産物への信頼確保
- ◆食と農に対する理解醸成
  - ・食育の推進による農への理解増進
  - ・地産地消推進による農産物の消費拡大